

ZOOM UP KEIDAIJIN

■特集Ⅰズームアップ経大人

92歳で「磯野会計事務所」の現役税理士

磯野 齊氏

国立大学法人山口大学 理事・副学長

坂手 恭介氏

OB REPORT

■特集Ⅱ OB探訪

元読売新聞大阪本社記事審査委員会委員

山本 長彦氏

鈴木油脂工業株式会社 代表取締役社長

鈴木 隆夫氏

ネット・チャンネルKYO副社長

一村 かおり氏

経大人のための情報誌

激江

2004年 40号

経大人特集

各界で活躍するOBの学生時代の思い出や、社会に出てからの奮闘ぶりを知ることは、今日の厳しい経済環境の中であって、いかにわが道を切り開いてゆくかを考える際の大きなヒントになるのではないだろうか。
勇気と希望に満ちたメッセージを紹介したい。

ZOOM UP KEIDAIJIN

P2へズームアップ経大人

戦中・戦後の混乱の中で苦労を重ねながら学び、激動の時代に日本の経済や社会の発展のため努力を惜しまなかった大先輩たち。
不屈の経大スピリットで困難を乗り越えた大先輩を訪ねた。

OB REPORT

P36へOB探訪

さまざまな分野で活躍するOBが増えている。
マルチな能力を発揮したり、新しいビジネス分野に挑戦したり—
彼らのユニークな活躍ぶりをレポートした。

c o n t e n t s

経大人特集Ⅰ

ズームアップ経大人

92歳、現役の税理士 磯野 齊氏……………2

国立大学法人 山口大学 理事・副学長 坂手 恭介氏……………4

経大人へのメッセージ

同窓会会長 田中富三氏……………6

理事長 井阪健一氏……………7

学長 重森 暁氏……………8

支部だより

全国支部からのお知らせ……………9

OBネットワーク

同期生OB会・クラブOB会・ゼミOB会から……………17

ゼミ短信

先生方からのメッセージ……………26

理事会報告……………29

本部だより……………30

事務局だより……………31

写真でたどる経大今昔……………32

社会人のための大学活用術……………34

経大人特集Ⅱ

OB探訪

元読売新聞大阪本社記事審査委員会委員 山本 長彦氏……………36

鈴木油脂工業(株)代表取締役社長 鈴木 隆夫氏……………37

ネット・チャンネルKYO副社長 一村 かおり氏……………38

黒正庵博士異聞……………39

パソコン教室……………40

オートム・コレクション……………41

表紙

2004年秋にC館が誕生しました。掲示板コーナーや学生ラウンジ、セルフラーニング室など学生のアメニティを重視した建物です。

多くのひととの

出合いを大切に

磯野 齊氏 (3回卒)

森川 義一 取材



私は明治45年、長崎県福江に生まれ、小学校2年の時に山口県下関市に移り住んだ。商業実践学校を卒業し、昭和4年4月社会人となった。就職先は富士電機製造(株) 門司出張所であった。

社内は口癖のいかめしい紳士ばかりで、どの人も会社を背負っているようで頼もしく見えた。当時私は17歳であつたが背格好が小さかつたので、大人ばかりの中に子どもが1人参加したようなものであつた。

銀行へ使いに行ったり、今では死語となつた「こづかいさん」の手伝いをして数カ月が経つた頃、經理の上司に経費帳をもたされ經理係の末席に座ることになった。

しだいに社内の空気に慣れ、私とこづかいさん以外の人はすべて大学出身者であることを知つた。現在と違い、大学出はほとんどいない時代に、「この会社はさすがだな」と思うと同時に、学歴社会ということを知り、自分の将来を推察して不安な思ひになつてた。

「よし、俺も大学出になろう」：銀行の行き帰りにそんなことを考えるようになったある日、本屋の店先で「教員受験生」という本が目にとまり、立ち読みするうち

に英語専科正教員の受験を決心した。この試験に合格すると、早稲田大学に無試験入学の道が開かれた。今流行の一芸入学である。通勤に利用する関門連絡船の乗船時間は、単語を覚えるのに格好の時間であつた。外人との会話を勉強するために教会の日曜学校にも通い、3年目にしようやく合格した。その合格通知が来た時に、小柄な父が私を抱いて部屋の中を小躍りして喜んでくれたことが、昨日のことのように思ひ出される。

翌年20歳になり徴兵検査が行われたが、当時私の体格は細く貧弱だったので幸か不幸か不合格になった。そんな折、父の友人から大阪行きを誘われ、早大を諦めて上阪することになった。

昭和7年7月、なんの予備知識もないまま胸を膨らませてやってきた大阪はあまりにも広く大都会で、学校に行こうにも情報を得る方法が分からず果敢とした。

情報不足の私の頭にひらめいたのは、門司の会社でのことであつた。所長たちが勝敗でさわいでいた夏の全国中等野球のことを思い出したのである。浪商が強かつたので一番良い学校という記憶がのこつていた。

9月になると、ためらうことな

PROFILE

磯野 齊(いその ひとし)氏 (3回卒)
明治45年3月21日生まれ、長崎県出身、92歳
昭和12年4月、前身の昭和商社卒業後
「ドイツ製鋼株式会社」「特殊金属工業所」「安宅産業株式会社」
「前田金属工業株式会社」「合同金属」などで要職を歴任、
現在も「磯野会計事務所」で現役の税理士として活躍中。

く浪商を訪れて転入を許され、昭和9年4月当然のごとく浪華高商へ進学した。人の運命は見えざる手によって導かれているのかもしれない。昭和10年、京都大学経済学博士黒正巖教授のご尽力により、浪華高商は校名を昭和商社と改めて再生した。

黒正先生は京都大学で教鞭をとられる傍ら、昭和商社の校長に就任された。世人注視のなか、京大の錚々たる教授陣の講義を受けることになったのである。その頃、ラグビー、サッカー等運動部が盛んになるにつれて、私はE・S・Sや弁論部を先輩たちと協力して創り、他の高商との交流をはかり、学校名はしだいに人の知るところとなつていった。

黒正校長の明朗闊達なお話し振りは私たちの心を捉え希望の源になった。「今からの青年は、英語はもちろん、もう1カ国語をマスターする必要がある」と口癖のように話されていたことが思い出される。昭和商社で蓄積された知識は、その後私の人生にとって貴重な判断の指針となつていく。

卒業を控えた昭和11年の暮れ、ドイツ商社の求人広告を見つけた。応募資格は高専卒、年齢30歳前後。

高学歴、高知識とまではいかずとも有資格者として受験できると自信を持つて応募した。世は不況、確たる数字は知らないが20数名の応募者であつた。当時私は24歳という若輩であつたが、30歳前後という年齢制限は、就職に対する熱意でなんとかなると考え試験に臨んだのである。

1週間が経つたが、返事が遅いのは一次試験合格と判断してその後会社を訪問し、4日目ついに社内誘導されて外人マネージャーと面談、合格第1号となつた。私に続いて2名が入社したが、もちろん一番若い社員となつたのである。

会社はドイツ最右翼の特殊鋼メーカーの総代理店・ドイツ製鋼(株)であつた。満州事変、日支事変と戦争は拡大し、同僚にも召集令状が来た。ドイツからの輸入業務もしだいに困難となり、やむなく閉社となつた。その後、軍需工場に移り昭和15年に結婚した。

軍需工場で働く傍ら立命館大学法経学部に進学し、子どもの頃から念願の夢を実現した。昭和16年12月大東亜戦争勃発、立命館大学で末川博教授はじめ著名な先生方の講義を受けたことは、な

ものにも代えがたい無形の蓄財となつたのである。

昭和20年8月、大東亜戦争は無条件降伏に終わった。戦争のすさまじさ、恐ろしさは言語に絶するものである。大都会も瞬時にして灰燼と化した。戦中戦後にわたる国民の生活は馬糧に等しい配給食に耐え、残り少なくなつた衣類は子どもたちの食糧と物々交換になつた。

戦時中、昭和商社の校舎は機械工場に転用されていた。敗戦を迎え昭和商社は女子経専となつて経済学を学んだ多くの女性を世に送り出した。戦後、新制大学として名称を大阪経済大学として今日に至るのである。

私は敗戦の翌21年11月、大蔵省に計理士登録、友人の会社設立事務、米軍のC・C・Dのトランスレーターにも就職し、細々ながら自分なりの生活が始まつた。

昭和27年税理士登録、ようやく曙光を見る心地がするようになった頃、東京からドイツ貿易再開の知らせを受け、大阪営業所開設に参加した。ドイツ製品の国産化やF社製品の輸入についての契約等に関し、渡独したのは昭和43年であつた。その年VDM社の製

品を三菱金属(株)で国産化することになり、合同金属(株)の設立に参加した。ドイツからの輸入と国産化による業務が順調に進むうち、私は64歳になり専務を辞任した。

大阪経済大学は年々内容、外観とも充実を加え大学に対する同窓会のかかわりも重要さを増していった。振り返ってみると、創立50周年記念に、同窓会長として全国の同窓会支部を訪ね歓談できたことは楽しい思い出となつていく。創立70年が過ぎ、理事長、学長、同窓会長の太い絆には一層の緊密かつ強靱さが求められている。

少子化時代は現実となり、大学を取り巻く環境が極めて困難となつている昨今、同窓生はすべて母校のますますの発展を願い、その一翼を担うため募金活動に協力を惜しんでほらないと思う。

私の一生を顧みれば、92歳という今日の長寿を与えられ、昭和商社卒業により多くの知人との交際に恵まれ、会社経営のアドバイザーとして今もお、社会貢献できることを心から感謝するしだいである。

ぶつかり合うことで 真のコミュニケーションが生まれる

国立大学法人 山口大学 理事・副学長（財務・施設担当）

坂手 恭介氏（32回卒）

森川 義一「取材



夢は体操教師だった

高校時代は体操部の選手でした。レスリング部と体操部の面倒を見ておられた若松先生という方の影響を受けて3年間体操ばかりしておりました。日本体育大学とまではいなくても、学芸大を出て体操の先生になろうと決めていました。ところが2年生の時、視力障害に襲われローリングができなくなりました。これが私の人生の歩みを変える第一歩でした。

天王寺予備校に通っていた私は、早原校長に大きな影響を受けることになるのですが、どうしても体育教師の夢を捨てきれず、そのための勉強をしていました。しかし角膜炎、ヘルペスという病気が回復せず、2浪を諦め、3月に入って受験機会の残っていた大阪経済大学の2次試験を受けることになりました。

合格はしたが、なんとなく馴染めず、自分で自分を許せないというか、今思えば邪道ですが、自分の進めなかった道への不満や悔しさにこだわって悶々とし、それでいて生意気でどうしようもない学生でした。とにかく2次募集集まったが、卒業の時は1番で出てやろうと思っていた（これは実現できた）くらいですから、入学してすぐ簿記・会計部に入学、3年

の時には税理士資格に必要な5科目の内2科目を取得するという勢いでした。ただ、税理士になろうという気はさらさらなく、公認会計士を目指し、その資格をもって実社会で活躍してやろうと思っていました。4年生になって就職部から呼ばれ「お前の成績なら行ける。伊藤忠商事を受けなさい」と、指導を受けました。ところが、若気の至りというのか、その方の態度が気に入らないと断わってしまったものの、それにかわる就職先の当てもなく、税理士になりたいという願望もなかったため、結局、簿記・会計部の顧問だった泉谷先生やゼミの北里先生の勧めで、神戸大学の大学院へ進学することになりました。

そして北里先生から「会計学の大家で山下教授という先生のゼミに入れ」と、指導を受けましたが、ここでも反抗して、かつて大阪経済大学で会計学会の大会が行われた際、お目にかかったことのある久保田先生を選択しました。勉強の方は大変でした。グーテンベルグのドイツ語の本を手渡され、「翻訳しろ」と言われました。大阪経済大学ではドイツ語も「優」をもらっていましたが、全く読めません。そこで当時G館におられた泉谷先生の部屋を訪れ、先生と一緒に勉強させてもらいました。泉谷

PROFILE

坂手 恭介（さかて きょうすけ）氏（32回卒）
国立大学法人 山口大学 理事・副学長（財務・施設担当）
岡山県出身、大阪府立扇町高校を経て昭和37年大阪経済大学に入学。
昭和41年3月卒業後、神戸大学大学院に進学してマスターの資格を取得。
卒業後は広島商科大学（現広島修道大学）、
創価大学、姫路獨協大学で教壇に立ち、現在山口大学で副学長として、
さらには学校法人の理事として大学運営にも携わっている。

先生はイタリア語の会計学の大家で「ドイツ語は……」といいながらも、いっしょになつて固定費の理論の翻訳を手伝って下さいました。お蔭で自信をつけましたが、やはり神戸大卒の学生との学力差を感じさせられ、円形脱毛症になつたくらいでした。こうしてマスターを取得した私は、広島商科大学（現在の広島修道大学）で、大学助手という職業をスタートし、3年後創価大学へと進むことになりました。

大学受験の際の精神的負担というか、自分では勉強したつもりなのに、何故なんだということが、常に不満足感としてトラウマとなつて自分に付きまとい、いつしか創価学会へ身を置くことになりました。これが創価大学へ転向の動機となり、ここで28歳から49歳まで21年間お世話になりました。

この間米国への留学を契機として経営学教育は実践教育が必須であり、ビジネススクール開設を強く意識するようになり、神戸大学の小林先生の勧めもあって姫路獨協大学へ、そして3年後、再び小林先生のお世話で現在の山口大学の人になつたわけです。ここでは創価大学時代にできなかった勉強三昧をやらせてもらおうと思っていたのですが、結局志したことを自分で壊しているんです。

国立大学の独立行政法人化の施行に伴い、大学運営を担う大学法人理事に選任され、この4月から副学長に就任するとともに、財務部門の責任者としての仕事にも携わるという状況です。

「これで学校がどう変わったか」とよく聞かれるのですが、いままでは国立大学としてロケーションはどこにあつたにせよ、国の行政機関の一部ですから、山口県のためというわけにはいきませんでした。ところが、これからは山口県にある独立法人として、地域貢献を、地域連携を見直し、お付き合ひ的な関係から積極的なパートナーになつたわけです。まだ、そんな大きな成果を生んだというわけにはいきませんが、期待しております。

大学発展の力ギは 職員のエネルギーだ

姫路獨協大学時代の1年間、大阪経済大学で講師をやったことがありました。その時、学生に共感を持つたことがありました。彼らは私の学生時代と同様に、どこか自信を持ってなくて、どこかもがいていました。私の場合もそうでしたが、自分もがいているというところを見られたくないんです。私はその時、浜本先生によく噛み付いたりしましたが、

そうすることでフラストレーションを消化していました。このプロセスが教育ではないでしょうか。その意味から浜本先生は実に立派な方だと思えます。もちろん泉谷先生、北里先生の御恩は筆舌に尽くし難いです。つまり先生と生徒がぶつかり合つて、そのプロセスの中で成長して行くんです。それがなくて、スムーズに交通整理された機構を作り上げて行く、ということが本当に正しい教育のあり方なのかと思うのですが……

そういう意味から大阪経済大学は、学校も、学生も、もう少し活力がほしいと思います。それに大学を作っているのは、先生ではなく、志を持つ職員なんです。もちろんブレイヤーとしての教授の存在はありますが、そのエネルギーだ、情熱だということになると職員なんです。先生方は何年かすれば変わっていくでしょう。職員は生涯そこにいるわけです。とくに中堅職員はサラリーマンになつてしまつてはダメです。当校の会議などに出ると、職員の方は「この大学が成り立っているのはオレがいるからだ」という雰囲気盛りがつています。国立大学でこれですから、私学なら当然そうあるべきだと思います。

私はよく平将門のことを思い出します。中央政権からの派遣の役人、

徴税人だった人が、現場の勢力に魅せられて、出世を捨て、そのエネルギーを国対地方のあり方に向け、そこで自分のスキルを磨きました。でも悔しさは残る。このエネルギーのぶつかり合いがそうさせているのだと思っています。繰り返して申し上げますが、職員のエネルギーを、教授という入れ物にオーソライズして、学生がそれを味わうということを忘れないでほしい。そして経大発展のために大いに実力を発揮していただきたいと願っています。



庭園から大学本部をのぞむ

同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

常日頃より、大学に対し何かとご支援ご協力を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。おかげ様で、本学は順風満帆とまではまいりませんが、一定の社会的評価を得ると共に中堅大学としてのポジションを堅持してまいりました。

申し上げるまでもなく、昨今の大学を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、国立大学の独立行政法人化に象徴されますように、大学間競争の激化は避けることのできない時代の潮流となっております。国立、私立の棲み分けが崩壊し、国立大学の経営戦略いかによって、私学経営はなお一層の困難が予想され、すでに厳しい生き残り競争が繰り広げられています。

少子化の進行により、選り好みしなければ誰でも大学生になれる「全入時代」を迎えて、「大学とは何か」が改めて問われています。「高等教育への進学率が15%を超えると高等教育はエリート段階からマス段階へと移行し、さらに、進学率が50%を超えるとユニバーサル段階となる」と言われています。このような時代にあつて、大学人

が自らを研究者であると規定し、研究成果の披露が最高の教育であるとの考え方では大学教育は成立しなくなります。それぞれの大学の個性・特色・ポジションを明確にし、多様な学習者のニーズに適切に対応していく必要があります。大学観も時代や社会状況に応じて変貌していかなければなりません。

そして、4年間の教育の中身と学生の満足度、それを裏付ける教員の資質、職員管理・行政能力の向上、教育・研究環境の整備等の総体が相まって大学の實力が推し量られることとなります。

本学は経済、経営系の大学として70年を超える歴史を積み重ねてまいりました。昭和商高以降の卒業生は73857人となり、今年は新制大学以降の卒業生が7万人を超えた年ともなりました。

これからの大学づくりは教職員協働のもとに学生、父母、同窓生が一体となって推進していかなければなりません。今後とも同窓生の皆様方の旧来に増してのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご活躍とご健勝を祈念いたします。

大学「全入時代」を迎えて

大阪経済大学理事長
井阪 健一



平素は母校並びに同窓会に何かとお心をお寄せいただきありがとうございます。

フェア・オープン・スピリットを同窓会活動の基本理念としてやってまいりました。まだ至らぬこともあります。皆様のご鞭撻を賜りながら努力してまいりたいと思います。

母校も創立70周年を契機として大きく変貌しております。設備もC館の完成で一段落し、大学院の北浜キャンパスサテライトは来春開講へ着々準備中であります。偏差値も上昇しており、また、全国高校生より募った「17歳からのメッセージ」は初年度の4倍半に達する32,000人に増える等、外部からの評価、関心が高まっております。格付取得「Aプラス」は正にその象徴であります。

しかしながら大学全入時代を目前に控え、今や大学の生き残り競争は熾烈であります。我々同窓会は母校と運命共同体であります。母校の発展なくして同窓会の発展もありません。

今、大学の為すべき最大のサービスは「学生の能力を高める」ことに尽きるところだと思います。学生に付加価値をつけて社会に送り出す、これは井阪理事長の持論であります。付加価値とは数学者広中平祐先生の言葉を借りるなら「汎精品」であります。

「汎」はどこにでも通用する、どこに出しても恥ずかしくない、「精」はしっかりしたハート、「品」は品性ということでありましょう。

同窓会活動の一環として実施いたします左記のことは、学生の付加価値向上への一助になればと大学側の理解のもと実行しております。

- ◆「OBと何でも話そう会・第一線で活躍するOBを招いての講座」
- ◆「OBによるOB参加による学生各界で活躍するOB参加による学生のモチベーション昂揚」
- ◆「インターンシップの支援」
- ◆「OB企業による受け入れ協力」
- ◆「パソコン教室・フリーマーケット」
- ◆「企画段階から学生参加による実践活動体験」

今後も母校発展のため、前向きに取り組んでまいります。ご支援方よろしく申し上げます。

なお情報伝達手段の1つホームページが利用率22%で、やや寂しい感があります。中身の充実に努めておりますのでご利用くださるようお願いいたします。

最後に「70周年募金」にご厚志を賜り感謝いたします。期限は17年4月であります。更なるご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りします。

同窓の皆様、 お変わりなく お過ごしでしょうか。

大阪経済大学同窓会会長
田中 富三



支部だより

全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

支部総会で

「私のこの1年」を報告

北海道支部

第23回北海道支部総会が渡邊学長と津秋同窓会副会長をお迎えして10月22日に開催されました。会員数が少ない北海道支部ならではの恒例報告「私のこの1年」では参加者が極めて私的な報告を行い、皆の喝采や励ましを受けております。

平成14年に25年間勤めた北海道盲導犬協会を退職した私は、4カ月前で日本を放浪し、その後も気ままな生活を送っていました。昨年12月にこれまでの知識を活かしてドッグカフェをオープンし、順調に経営できていることを報告し、ご心配をおかけした会員の皆様に安堵していただくことができました。

北国の同窓生の暖かな集まりに心から感謝申し上げます。また来年の再会を楽しみにしております。

長崎中明 (43回)



同窓会の意義

東京支部



恒例の支部総会が、今年も10月13日、八重洲富士屋ホテルにて開催されます。昨年は、渡邊学長、田中会長にご臨席いただき、こころしい評価回復等、本学事情を直につぶさに拝聴することができました。また、同窓生同志は、1年ぶりから果ては卒業以来となる旧交を温め、2時間余の宴を名残り惜しみつつ再会を約し散会しました。今年も既に1100余の案内状を送付、例年以上の参加を見込み、準備いたしております。ただ、昨今、20、30歳の熱き世代の出席が、イマイチの状況です。様々な人生経験、世代を超えた大東京圏での同窓生の集まりを介し、人的ネ

台風接近の中、
静岡支部総会を開催

静岡支部

ツトワーク構築等、本気で接すれば必ずためになります。これこそが同窓会、ますますのご参加を望んでおります。

橋本和佳 (41回)

新幹線の駅が6カ所もあり、県内の統一に苦心の連続ですが、今年も総会が開催できました。当日は八木田教授、津秋副会長、水納事務局長の参加をいただき、静岡の老舗「うおかね」にて8月29日に予定通り実施した。大型台風接近中とあってドタキャンが4件も発生したことは残念だった。席上では議事が円満に了承され、懇談では、全国経済大学連絡協を結成しては、等々の話題も出され、出席者全員の発言が楽しく飛び交う和やかであった。解散後も支部の大半が2次会に参加して来年の再会を誓った。

この誌上を通じて未参加の各位に来年の参加を要請いたします。

支部長

磯田郷一郎 (26回)

自由と融和と協働の
大学づくりをめざして
— 卒業生のみなさんへ —大阪経済大学学長
重森 暁

若い世代の参加で賑やかに

富山支部

富山県支部総会を7月10日(土)「とやま自遊館」にて開催いたしました。当日は19名の参加でしたが若い世代の方の参加が多く賑やかな会となりました。

大学からは高橋努サテライト大学院準備室、同窓会本部からは福元同窓会副会長に大変ご多忙の中ご臨席賜りました。総会は大変盛り上がり、今年は支部総会の案内に近況の欄を設けたところ、当日都合で参加されなかった皆さんからも様々な情報やご意見をいただきました。今後の運営に役立てたいと思います。これから多数の会員の皆様にご出席をお願いします。活発な総会になるようお願いいたします。

支部長 重松 尚 (23回)



大淀会の20周年を迎えて

福井支部

今年は福井支部に大淀会（若手のメンバー）ができてから20周年を迎えました。この春2月21日にはマリオン演奏者の平岡愛子さんによるコンサートを開催し、一層の親睦を深め交流の輪を広げることができました。若手に支えられた支部活動も若者のフレッシュな感覚を大切にしながら進めたいと考えています。

6月19日は福井に初めて田中同窓会長をお迎えし、また陛下常務相談役、香積常任理事を交えて支部総会が盛大に開催されました。母校70周年記念事業を契機とする目覚ましい発展ぶりを聞くにつけ、地方にいる我々の大きな励みとなり、母校の一層の発展のため若手の感覚に学びながら、地方でできることに努力したいと念じています。

支部長 吉田 毅（20回）



平成15年度 愛知支部総会

愛知支部

経大愛知支部総会を平成15年11月15日名古屋の真ん中、名古屋国際ホテルに於いて開催いたしました。学校より佐藤総務部長、同窓会より水納敏也事務局長にご出席いただき、総勢20数名が集まり土曜日の夜、楽しいひと時を過ごしました。今回はなんとと言っても、目玉は第一部パネルディスカッション（相続税の仕組みと相続時精算課税制度）で、第一税理士法人代表の小松佳史さんとソニー生命保険（株）ライフプランナーの本堀和博さんの軽妙なやり取りでした。お話しに魅せられ、聞き入っていました。（お二人とも、62年卒53回生）

第二部は佐藤部長より学校の現況報告、水納事務局長より他支部のお話をお聞きし懐かしい母校の思い出に浸っていました。経済情勢が厳しい環境の中で、母校の発展がどれだけ同窓生に勇気と自信を与えてくれるか計り知れません。又、その逆もあり、同窓生で小松さんや本堀さんのように優秀な人材が愛知で育っています。これこそ経大魂が確実に力をつけているのであって、こんなに頼もしく思ったのは私だけでは無かったと思います。

その後も中華料理で舌つづみをうち、ビンゴゲームなどの余興もあつ



て、あつというまの楽しい3時間がすぎました。最後は長老10回生河盛さんの頑張ろう、大阪経済大学の万歳で幕を閉じました。

幹事 井上武彦（31回）

次期総会への多数の出席に期待

京都支部

平成16年7月2日、京都ホテルオークラにて6時30分より、大学側から総務部長波根様、同窓会本部より会長田中様、副会長津秋様を迎え、支部総会が開催されました。例年のごとく出席者18名と寂しい会でしたが、円テーブルを囲み和気あいあいとした昔のことを思い出したりして有意



義な会となり、終了後有志で2次会を行いカラオケでにぎわいました。

京都支部は、1300名を超える会員がいながらこのような会が30数年続いているように思います。もう少し、卒業生としての自覚を認識していただき、来年度の支部総会（予定では7月初め頃）は、多数の出席を希望しております。出欠のほがきは、必ず返信いただくようお願いいたします。最小限のマナーだと思います。

支部長 南 和男（35回）

趣向をかえて

大阪市役所支部

昨年度は締め切りを忘れて投稿できず、すみませんでした。例年の総会は懇親会中心の同窓会でしたが、今年は趣向をかえて、講演会と懇親

全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

創立20周年記念総会を挙

豊中支部

日時：平成16年10月17日（日）

午後2時～ 総会

午後3時～ 懇親会

会場：ホテル アイボリー

来賓：大学前学長 渡邊 泉教授

同窓会会長 田中富三（18回）

同窓会副会長 津秋靖博（29回）

同窓会事務局

水納敏也（25回）

同窓会事務局長代理

神田 博（30回）

喜多条忠信氏（41回）の司会で開

会。笠井二郎支部長（26回）の挨拶。

予定の議案審議を終えて講演に移る。

渡邊前学長は「将来の経大の進む



べき方向」と題して、「施設はかなりの充実をみた現在、今後は学生に対する教育条件を高める。1学部2学科を目標、北浜のサテライト大学院開講」について、次いで田中会長は、「支部活動の活性化について」と題して「無活動支部への対策。地方支部のブロック活動。支部長のリーダーシップを促す」旨のお話であった。

懇親会の進行は、当日配布の「議案書」の素晴らしい編集が物語っている。20周年を如実に表現、代々の支部長がかなめに立つ。長嶺孝博氏（46回）の司会、開会宣言は初代支部長・筒井英夫氏（11回）、学歌リードは3代目支部長・山本雄三氏（28回）、乾杯の音頭は2代目支部長・黒田稔氏（15回）。会の半ばで、津秋靖博氏（29回）の祝辞を頂く。後半、万歳三唱は4代目支部長・林博氏（12回）、閉会の言葉は5代目支部長・三原健太郎氏（29回）がそれぞれ受け持った。

出席者の動きは余り芳しくなかったが、素晴らしい企画と代々の支部長がくつわを揃え、20周年らしい有意義な総会であった。

前田悦子（13回）

【平成17年度支部行事】

「平成17年9月30日」

●麻雀大会

【平成17年3月12日（土）】

●六個山（箕面）ハイキング

【平成17年4月3日（日）】

●カラオケ大会

【平成17年5月14日（土）】

●ゴルフコンペ

【平成17年5月26日（木）】

●ボーリング大会

【平成17年7月9日（土）】

●読書会（一泊）

【平成17年9月3日（土）】

*詳細は広報誌「豊中支部だより」または「OBホームページ」をご覧ください。

支部長 笠井二郎（26回）

経大旗を背に

池田支部

2009年度から入学する大学・学部を選ばないのであれば「全入時代」が到来することが、文部科学省から発表されました。今、社会や経済界、企業が求めている大学生には、「豊かな人間力」に加えて「なにを学び、なにができるのか」「資格を身に

つけているか」と厳しい注文が突きつけられています。これからの大学は教育研究の質を絶えず改革すること、真面目な取り組みが求められ、KEIDAI DAYSでも紹介されているように、2005年度から「ビジネス情報学科」と「ファイナンス学科」を設置し、即戦力の専門養成という大方針のもと、教授をはじめ全学で推進されていますが、同窓会としてたいへん心強く思っております。文武両道に秀でた経大生がやがて各支部に参加して、経大旗を背に学歌を心ゆくまで高唱できる日を楽しみにしております。同窓会支部の発展と、各位のご健勝をご祈念いたします。

支部長 渡邊泰敏（21回）

近隣支部長にもご出席いただき支部設立総会を開催

堺支部

このたび同窓会44番目の支部として堺支部が、平成15年12月20日堺リッガロイヤルホテルにて86名の参加者を得て発足いたしました。実は堺市は本年度政令指定都市に決定している市で、大阪府で一番大きい市でもあります。卒業生が1200名もいるのに支部がないのはおかしいのではないかと、同窓仲間有志が10名程集まって再三打ち合わせを行った結果、年内に設立総会をしようという気運が高まり総会を開きました。

当日は来賓として同窓会本部から津秋副会長、水納事務局長、大学から田村事務局長をお迎えし、母校の現況等についてご報告をしていただ

「渦潮と架橋の町」 南淡町で総会を開催

淡路島支部

が、本年は11月20日にノボテル甲子園で開催いたしました。一昨年の総会で中山支部長に代わって承認された現西宮市収入役の進木伸次郎氏において最初の支部総会で、同窓会のあり方等、きめの細かい手法で会員に参加を呼びかけてまいりました。毎回総会を開催するたびに、出席率が悪いのはどこに問題があるのか、ただ単に案内通知のみに頼っているだけではだめだということで、支部長はまず市役所内部と宝塚、芦屋の職員にも働きかけるとともに、卒業回数に関係なくレジャーや趣味の共通するものを、仕事上のお互い利用できるものをより活用しながら、付き合ひの範囲を広げていくことが重要だとしました。会員相互の輪を広げましょ

金子 赫 (24回)



当日学校より渡邊前学長、田中同窓会長、井阪理事長は病気のため西山春秋会会長に代理出席していただき、また講演には本学31回卒業の牧野明次岩谷産業株式会社社長にお願いしました。また、26回卒業の田中夏木四條巖市長、近隣の支部長、大阪市、大阪市役所、泉南の各支部長に年末何かとお忙しい中、御出席していただき、私共支部会員一同大いに感謝し、さらなる同窓会本部の発展、堺支部の発展に会員一同がんばっていくことを誓い合いました。

設立後、早速支部役員会を3回開催して役員会の互助会も決定し、役

今年もまた、大樟教育研究会和歌山支部の集いが6月18日和歌山市内のホテルで開催された。県下各校で活躍している高校の教員が一堂に集まった。大学側から、波根総務部長、替地サテライト大学院準備室次長、本県から宇藤同窓会支部長、新田事務局長が出席され、会に花を添えて頂いた。会では、お互いの健康をたえ、17歳からのメッセージに協力していくことを約束した。

和歌山支部

17歳からのメッセージが とりもった縁

支部長 堀本 修 (24回)

同窓会に空間地域が少ない方が良いと思いますので、他地域の方でもお知り合いの卒業生の方々に一人でも多く声をかけていただき、特に若い方、女性の卒業生の多数の仲間の参加を期待しております。

【卒業生数】

河内長野市、富田林市、和泉市、高石市、狭山市、羽曳野市、南河内郡(約960名)

員会の親睦会、ゴルフ会も行い、本年度は11月7日堺リーガロイヤルホテルにて第2回総会を行うことを決定いたしました。第2回からは堺市に隣接している卒業生仲間にも参加を呼びかけ、仲良く楽しく同窓会に参加していただけるよう決定いたしました。

尼崎支部は平成16年度支部総会を4月28日に尼崎市の「ホテルニューアルカイック」に於いて開催しました。来賓として大学から田村正晴事務局長、同窓会より水納敏也同窓会事務局次長、神田博事務局長代理、山本晴義元学長の御出席と会員37名の参加がありました。

尼崎支部

平成16年度尼崎支部総会

今後とも会の充実を図るとともに、17歳からのメッセージに協力していきたいと思つ。 松本公望 (30回)

実はこの会は今から4年前、創立70周年記念事業の1つである17歳からのメッセージに始まる。当時周年事業の担当課長だった替地さん、総務部長で本学OBの波根さんから、このメッセージに協力してほしいとの依頼があり、早速県下各校で頑張っている本学OBの教員に声をかけると、10数人が集まってくれた。全員が協力することを約束し、本県から数多く応募した。その後、年1回集まるようになり、今年で4年目を迎える。本県からの応募も年々多くなり、本年は応募数上位30校の中に4校が上位に入っている。

17歳からのメッセージのお陰で、なかなか持てなかつた教員の集まりが毎年開かれるようになった。

今後とも会の充実を図るとともに、

17歳からのメッセージに協力して

きたいと思つ。

松本公望 (30回)



—平成16年度総会—
大阪経済大学同窓会 尼崎支部

御祝辞をいただき、会計報告と役員改選を行いました。

懇親会は山本元学長の乾杯にて始まり、全員参加のゲームで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。最後に平沼副支部長の万歳三唱の後に学歌を熱唱して今後の同窓会の発展を願ひながら散会しました。来年もより多くの参加を期待しています。

支部長 小谷芳男 (24回)

きめ細かい手法で 総会参加を呼びかけ

西宮支部

昨年は支部総会を開催しなかった



第14回大阪経済大学同窓会 淡路島支部総会

ご報告いただいた内容が、母校の改革が進み評価が日増しに上昇しているというもので同窓生として頼もしく思いました。

総会終了後懇親会に移りましたが、初めての試みとして母校で製作した学歌、学園歌等の入ったCD(着写かけて)を会場内で流したこともあり、今まで以上に盛りあがり、時間の過ぎるのも忘れて賑やかに楽しく懇談することができました。

懇親会の締めくくりとして恒例により声高らかに学歌、学園歌、追遠歌を斉唱後、次回の再会を期して散会しました。

最後になりますが、次回の総会

15回目の節目となりますので、淡路島在住の同窓生諸氏の方々、同級生、先輩、後輩をお誘い合わせのうえ是非ご出席ください。

支部長 長船昭一郎 (32回)

「ポップ・ステップ・スリッ」

愛媛支部

「ポップ・ステップ・ジャンプ」を合言葉に愛媛支部が発足され、今年で21年目を迎えました。当初330名だった同窓生が、今では500名を超える勢いです。愛媛支部を東西二分割にする、今がそのときなのではないでしょうか。また、平成の大合併の流れに乗って、四国四支部が、一つに合併される時機到来なのではないでしょうか。

前日、明石家さんまのトーク番組を見ていて、現在は「ポップ・ステップ・スリッ」の時期だと言ったのを聞き、これはまさに、愛媛支部の現状を言っているようで、愕然としました。同窓生は増加しましたが、逆に参加数は35名から17名へと減少し、反比例状態です。この悪い流れを断ち切るには……さあ、どうする、愛媛支部!!

宮崎望 (37回)

懐かしい母校にて 平成16年度の支部総会を開催

丹有支部

平成16年10月23日わが母校を訪問

して、最近の学校の現況と、新しくできた70周年記念館や新学舎などのキャンパスを見学しながら、懐かしい昔を振り返り若かりし頃の学生時代に戻って1日楽しく過ごそうとの目的で「16年度丹有支部総会」を開催しました。

開催日の前日、日本に台風23号が上陸し、ほぼ列島を横断、当地丹有地区の隣の豊岡市、出石市等々に大きな災害を残し、その隣町である我々の丹有柏原地区も一部河川が氾濫し被害を受けたこと等があり、柏原地区同窓生をのぞき今回は最終的に13名が参加しました。

遅い秋の、久しぶりの清々しい天気の日を、学校側同窓会本部のご配慮により最近の現況説明およびキャンパス案内で、それぞれ各学部の新校舎における講義用階段円形教室、



Osaka University of Economics



第62回総会において 北谷新支部長を選出

広島支部

平成16年10月27日、広島支部総会を開催しました。

大学より八木田教授、同窓会本部より小谷総務部長と神田事務局代理のご出席を賜りました。遠路広島までおいでいただき感謝申し上げます。支部会員は15名の参加でした。大きく変貌する大学および同窓会の近況をお聞かせいただき参加者一同、意を強くした次第です。

今総会では、長きにわたり広島支部をまとめてこられた佐々木一義支部長が退任され、新支部長として北谷重幸氏（32回）が選任されました。新体制のもとで広島支部のさらなる飛躍のスタートが切られました。



総会の後、第2部の懇親会は鍋を囲み、なごやかに歓談し旧交を温めて散会しました。友谷義明（36回）

残暑を忘れ、 盛会裏に総会を開催

津山支部

8月28日、香積大学常務理事、陰下常務相談役のご来賓を始め、岡山支部より小野支部長、塩尻常任幹事様にも出席を頂き、初参加2名を含め25人の参加者を得て盛大に総会が開催された。今回は35期岡田様の「二人芝居」のアトラクションもあり、残暑を忘れ、楽しい会を催すことができた。なお、ゴルフ好きの会員は暑い中、スコアを気にせずプレーを楽しんだ。最後に、今回も遠路ご参加下さいました荒木、福田、松原各

その講義に使うデモンストレーション用のIT用具、生徒用のパソコン等の用具等々目を見張る教育設備を見学し、参加者一同ビックリ仰天、目を丸くしました。立派になった現況を見てこれからの学校への大きな期待と信頼を確信し、また若かりし頃の誇りと希望に満ちた気持ちに1日中戻りました。

これからの暑いっそう、微力ながら参加の同窓生一同改めて学校の発展のために地方でも頑張らねばとの思いになりました。

最後になりましたが今回学校側、及び同窓会事務局の方々に準備等で多大なるお世話になり、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

支部長 廣野義直（34回）

和気あいあいと 盛り上がった懇親会

明石支部

平成16年9月11日（土）にホテルキャッスルプラザで支部総会を開催しました。本年は31名の参加があり、大学からは香積常務理事、福元同窓会副会長、水納同窓会事務局局長に大変ご多忙の中、ご臨席頂きました。総会は佐藤武司支部長の挨拶の後、来賓各位より、御祝辞をいただき、母校の近況等のお話を伺いました。懇親会では、食事、歓談、ビンゴゲームに一喜一憂し、最後に学歌、逍遙歌を熱唱して、初秋のひとときを



参加者相互が久々に親交を温める総会となりました。吉本明浩（41回）

支部総会と経大父母会を開催

岡山支部

昨年より岡山地区で、経大父母会が開催されることになりました。今年も7月11日に岡山プラザホテルで開催されました。これに合わせて岡山支部同窓会も、前日の7月10日（土）に支部総会を開催しました。学校側から7名の先生方と、同窓会本部より水納事務局長に出席していただき、以前より同窓会が盛り上がりつつあるように思われます。ただ全国的な傾向ですが、会員の参加意欲が



悪いのが現状です。現在岡山県も岡山支部と津山支部の2支部ですが、将来的には新見・高梁地区に新たな支部（仮称備北支部）を設立したい意向もあります。最近、新旧含めて毎回同じ人が8割位参加していただいております。その上に新しい人が参加してくれたらと願っています。

支部長 小野 隆（35回）

島根支部の近況

島根支部

平成15年10月18日、大学から総務部長 佐藤昌八様、同窓会より常務相談役 陰下嘉典様のご出席を得て、

先輩に心から感謝申し上げます。来年も多くの皆様のご参加を楽しみに企画をしていきたいと考えております。

支部長 竹本 巧（37回）

徳島銀行の成長株・ 吉岡宏美氏

徳島支部



地域に親しまれ愛される銀行を目指したい——株式会社徳島銀行（二部上場）常務取締役・吉岡宏美氏（52歳）写真、41回卒業）は、地元企業への貢献を第一に掲げる同銀行の最年少常務として「地元との密接なおつきあいによる営業推進」を強調する。1976年入行、2001年40歳代で取締役、2003年常務取締役、頭取の「秘蔵っ子」で将来同銀行を背負う有力候補の1人。同行の大経大同窓生20数人のトップで、「後輩がもっと受験して欲しい」と話している。

趣味は多彩だが木工品製作は一流。阿波杉を使ったいろいろな型の時計づくり、休日は自宅作業場で過ごす。作品は頭取の部屋にも。結婚記念品などにも大人気。家族は夫人と大学生の娘2人、中学生の息子の5人である。

支部長 田中良昌（26回）



初めての全九州同窓会

北九州支部

平成16年7月10日、初めての試みとして全九州支部同窓会を開催いたしました。同窓会から田中会長、津秋副会長、神田事務局局長代理、大学から八木田人間科学部教授にご参加いただき、同窓生は39名と奥様方、山口から小林支部長、後藤様の総勢47名で有意義な時間を過ごすことができました。「同窓生の大学への思いと一体感を再認識させよう」と、熊本濱支部長の音頭で計画、場所の選定に苦心しましたが、福岡開催と決定後、熊本、南九州、宮崎、大分各支部の方々には、遠方にて参加者集めと移動にご苦労をおかけいたしました。初対面同士お酒が入るにつれ



出雲市のホテル武志山荘で支部総会を開催いたしました。佐藤、陰下のご両所から大学の最新の情報や、社会的な評価の上昇などについてお聞きし、力強く感じました。また、「瀬江」に毎号紹介されている新しい学舎の偉容や、周辺の都市化に時代の変遷と進歩を感じました。

どのような変化があろうとも、出席者一同、多感なりし学生時代に立ち返り、学歌・逍遙歌を全員で高らかに歌い、有意義な一夕を過ごしました。今後の課題として若い会員諸氏の出席を得るにはいかにすべきや、一考を要すると思います。

支部長 浅原 宏（22回）

今年催されたOB会の紹介です。来年はあなたも参加してみては。



**60年の経過を忘れ
和やかに談笑**

第11期生会
平成16年度の第11期生会は、7月10日おなじみの梅田「ラ・クルール」において、香積大学常務理事、陰下同窓会常務相談役のご臨席で開催しました。

今回は大学、同窓会でご活躍され、第11期生会をお世話いただいた桑津昇さんが今年の3月に逝去されたので、その功績を偲んで、昭和商高在学時の青春時代の思い出話等語り合う会合を計画しました。

当日は、あいにくの天候にもかかわらず東京、南紀、近隣から12名の出席がありました。昭和19年9月繰上げ卒業以来、60年の経過を忘れるほど、若き良き時代の懐かしい談笑



で和やかな雰囲気でした。また、ご来賓の両氏から「大学の今後」についてお話があり熱気を感しました。

【出席者】井上、伊東、岩谷、重里、田中（秀）、田中（益）、伊達、北条、村田、吉岡、割本、筒井、筒井英夫（11回）

春の1日古都・奈良に集う

ひとみ会（13期生会）
平成16年4月8日（木）ひとみ会は奈良若草山の山麓「三笠温泉ホテル」でクラス会を開催しました。

出席者は30名。幹事は3組のメンバー（池田・飯田・岡本・吉田）で、学校側より水納事務局長が御出席下され、近年の学校の様子等お話を伺いました。また3時頃より、近日アメリカ永住されるという松田（大塚）様がお見えになり、すばらしいアール

トで「アリア」他2曲独唱して下さいました。御元気で過ごしの事を祈り上げます。

目下には東大寺大仏殿や興福寺五重塔を眺め、あつという間の1日でした。山桜の花吹雪も美しく、花弁を喰べに来る鹿があつちこつちにみられました。

3時半すぎ、また来年大阪で元氣にお会いするのを約束し解散いたしました。吉田 慶（13回）

最南端の八重山諸島を訪ねて

14期生同期会
昨年日本の最北端の島、利尻・礼文を旅した14期生は、今年は最南端の八重山諸島を訪ねることになった。3月1日、寒い風に追い立てられて関空を飛び立つて3時間、石垣島は亜熱帯地域で暖かい。コートやセーターをぬぎ、半袖でバスに乗り込んだ。1日目は竹富島へ渡り、古い独特の石垣やシーサーがにらみをきかす赤い屋根など伝統建築物保存区域を牛車でまわり、島内にただ1つの旅館に泊まり、心のこもったおもてなしをうけた。

2日目は石垣島へもどり島内観光。3日目は西表島へ渡り、浦内川を船で遊覧、ひき潮を待つて水牛車で由布島へわたった。由布島は全島植物園。プーゲンビリア・デイゴなど多

くの花と哀調の沖縄民謡、珍しい郷土料理など大満足の旅であった。残念なのは天気が悪く、満天の星が見えなかったこと。14期生の元氣のあかしとして来年も旅行しようと思われた。（参加者11名）

柴田悦子（14回）

**同期会実施に当たって
思うこと**

16・18同期会
本年も同期の集まりを5月17日に神戸ポートピアホテルで開催した。参加17名の顔ぶれは大半常連であったが、体調不良などで欠席のかわりに新参加や久しぶりの参加で例年どおりであった。

毎年1人でも多くの参加をと工夫（日帰り可能な会場設定など）しているが、参加者が例年案内状発送数の約1割強とはいささか寂しい気もす



全国の支部会からの活動報告と支部総会のお知らせ

親睦も深められ良かったと感じております。これを機に同窓会活動が盛り上がることを願います。

支部長 植田達三（52回）

支部総会に向けて

大分支部

たいへんご無沙汰いたしております。九州では、台風がいやになるほど来て、大きな被害を受けました。さて、大分支部が発足いたしました。3年近く、この度やっと総会を開くことができるようになりました。今その準備に追われております。北九州支部の方々や熊本支部のみなさんにご指導いただき、やっとここまで来ることができました。少しでも多くの人々に来ていただければ、楽しい総会にしたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

支部長 寒田 陽（40回）

各支部間の活発な交流に期待

熊本支部

念願であった全九州支部総会を7月、博多で開催いたしました。田中同窓会会長、八木田教授をはじめ、山口支部より参加賜り厚く御礼申し上げます。北九州、熊本、大分、宮崎、南九州各支部より約50名の参加を得、盛大な合同総会となり、わが熊本支部からも12名の強者が馳せ参じ意気軒昂ぶりを発揮しました。大

大阪経済大学全九州支部同窓会



分支部も発足より初総会を11月に開催する旨確約があり、今回の合同総会が契機となり、各支部間の交流が活発となることでしょう。今回の熱気を忘れることなく、今後の支部運営を後輩の諸君にバトンタッチしていきたいと思っております。

最後に合同総会にご尽力いただきました北九州支部、植田支部長および関係各位に謝意を表します。

支部長 濱 忍（35回）

母校の発展をめざし日々一大奮起！

宮崎支部

宮崎支部では、母校の発展と会員相互の親睦を目指して、16年度は左記のような活動をしました。

なお、支部総会は毎年焼酎のうまくなる晩秋11月の最終土曜日と決めています。こぞってご参加ください。お待ちしております。

【平成16年度宮崎支部活動状況】



2月28日（土）支部役員会
第1回支部総会反省、会計報告、大学創立70周年記念募金への協力について

6月5日（土）支部役員会
大学創立70周年記念募金への協力について、オール九州支部総会への出席について、大学・同窓会本部主催フリーマーケットへの協力について

7月10日（土）オール九州支部総会
支部役員3名出席

8月2日（月）
大学創立70周年記念募金への協力願いの文章（振込用紙同封）79通を支部会員各位に発送

10月2日（土）支部役員会
支部総会の内容・総会運営・案内

状発送等について、大学・同窓会主催フリーマーケットへの協力について

10月31日（日）
フリーマーケットへの協力として宮崎産焼酎を同窓会本部宛発送

11月6日（土）支部役員会
支部総会運営についての細部にわたる協議

11月27日（土）第2回支部総会
支部長 大盛豊一（23回）

合宿所開放のご案内

南九州支部

南九州支部は、福岡での大会に3名参加し旧交を温めました。11月20日に、鹿児島にて支部総会を計画、来年秋には悲願の沖縄での集会を目指しています。会社勤務の関係で、南九州2県におられるOBのご連絡をお待ちしています。11月3日のオータムコレクションには、焼酎やシモン茶等の出店をして卒業生の活躍を確認してもらいたいと思っています。

南九州支部の在校生への協力の一環として、串木野市の一軒家を少人数のゼミやクラブの合宿所として開放することにしました。5人位の利用しか今のところできませんが、順次計画を拡大していこうと考えています。興味のある方は、同窓会支部長へご連絡ください。大学の発展を祈って南九州支部より。

支部長 前園博隆（34回）



また、3割近く無返信者が存在することも特筆しておかねばならない。この返信は同期生の消息を確認するうえに貴重な材料となっていることをご理解願いたい。

余生を有意義に過ごすためにも、旧友と相集い、往年を振りかえり、現今、将来を語り合うのも有意義ではなからうか。

酒井克己(16回)

同期生の熱意で迎えた20回目の集い

二十三期生会

同期生の熱意により、今年で20回目を迎えました。参加者28名中14名は昨年出席の人です。卒業後47年振り初参加の人は安居院(アウイン)氏と松尾氏の2名で懐かしきお話をしました。同窓会事務局より神田常務理事の御出席を頂き、同窓会や学校の現状についてお話を頂きました。その後会食に入り、久し振りの顔



合わせに話の花が咲いていました。後半は各人の現況について話して頂ける人に語ってもらい、和やかな内に終わりが近づき、最後に全員で学歌を歌い、元気で話し合えた喜びをこめて万歳三唱をしました。

た。その後、庭に出て黒正蔵先生の胸像の前で写真ととり、来年も元気でおいしましよと誓って家路につきました。今年は都合で欠席の人も来年は是非出席して下さい。皆でお待ちしております。

酒井弘光(23回)

経大26期生会の集いを盛会裡に終えて

経大26会

第26期生の皆さん、いかがお過ごしですか?平成15年11月16日(日)本部同窓会総会終了後、生協食堂で43年振りに(昭和35年卒)松本孟氏(喜田ゼミ)の呼び掛けで、33名の出席をえて第26期生会が誕生の運

びとなり、会の名称も「経大26会」と決まりました。

「第2回経大26会の集い」は、平成16年5月26日(水)大阪・道頓堀「くだおれ」で行い、東は千葉・船橋市、西は広島市から45名の出席がありました。懇親会では44年振りに、お互いの顔が判らず卒業アルバムを見ながら話をしてる間に、思い出すシーンもありました。250通の案内ハガキのうち155通(62%)の返事の中で今回は是非出席したい方が22名もありました。今回の集いは60名以上の出席を期待しております。

早速、ゴルフ同好会による「ゴルフコンペ」を平成16年9月15日(水)に「三田ゴルフクラブ」で開催することになりました。

今回の会場でのアンケートの結果、「第3回経大26会の集い」も下記ののとおり「くだおれ」で開催しますので、ゼミ、クラブの知人を一人でも多



く、誘い合って出席していただきますようにお願いいたします。

【記】

日時 平成17年5月26日(木)
昼12時集合
場所 大阪・道頓堀
くだおれ 5階
会費 8,000円
(このうち2,000円は諸経費)

連絡事務局 笠井二郎
TEL 06-6857-3866
FAX 06-6845-5852

笠井二郎(26回)

42年の歳月を振り返った「還暦同期会」

二期寮友会

平成15年11月8日(土)9日(日)、還暦を祝っての二期寮友会が千里「藤白荘」にて泊2日で開催されました。総勢13名、大学からは同期の波根総務部長、先輩の国西同窓会常務理事(31回卒)に出席いただき、お世話になった故井手口先生を偲んで大いに昔話に花を咲かせました。18歳で故郷を離れ、早いもので42年の歳月が経ちました。今振り返ると幾多の困難を克服したこと、胸躍らせて歓喜したこと、悲しかったことが走馬灯の様に思い出されます。生きとし生けるもの総て死と出会います。もう若くはありません。

総会に引き続き、和やかに懇親会で交流

柔道部OB会

去る平成16年3月20日、母校50周年記念館7階会議室において平成16年度の総会を開催する。

当日は島根県より宮原史郎先輩(21回)、羽曳野市より田村安德先輩(21回)、および高知県より松村享先輩(22回)、愛知県より三輪忠昭先輩(25回)等々、遠方よりの参加を始め各地より71名の参加を得て開催した。



【副会長】 内田 正(33回) 留任

佐々栄治(34回) 新任

中田有司(43回) 留任

【会計】 小笠原得光(40回) 留任

【監事】 石津 基(34回) 留任

藤田三郎(36回) 留任

【常任幹事】 吉川篤宏(31回) 留任

青井真澄(30回) 留任

植村亮介(41回) 新任

尾田 守(54回) 新任

【現役指導部】

【監督】 児玉道憲(30回) 留任

【副監督】 安田 太(46回) 留任

以上の通り選任され、選任者もこれを了承する。

以上で総会は終了し、場所を隣の宴会場に移しOB親睦会および現役卒業生と新入生の歓送迎会を行う。

入江先生のご冥福を祈って

柔道部OB会



平成16年7月25日(日)正午 50周年記念館7F同窓会ホールにて、本年2月22日にご逝去されました、前柔道部部長入江 正先生の偲ぶ会を、75名の参加を得て執り行いました。入江先生との数多くの想い

電話 090-1133-6793

住所 〒533-0003
大阪市東淀川区南江口
3丁目6-18

会長 桑原勇臣(32回)



いつ死と向かい合っても後悔のないよう己の力で生き抜いてみようではありませんか。同志諸君よ!同期の桜よ!みごと咲きはころんで散ってみよう。

【追記】 9日は江口グランド経大寮モニュメント記念碑、大学めぐり、井手口先生の墓参りと秋の紅葉を散策し解散致しました。尚、名簿を作成致しましたので入用の方は私まで連絡下さい。

【連絡先】

住所 〒533-0003

大阪市東淀川区南江口

3丁目6-18

会長 桑原勇臣(32回)



酒井弘光(23回)

経大26会

柔道部OB会

【副会長】 内田 正(33回) 留任

佐々栄治(34回) 新任

中田有司(43回) 留任

【会計】 小笠原得光(40回) 留任

【監事】 石津 基(34回) 留任

藤田三郎(36回) 留任

【常任幹事】 吉川篤宏(31回) 留任

青井真澄(30回) 留任

植村亮介(41回) 新任

尾田 守(54回) 新任

【現役指導部】

【監督】 児玉道憲(30回) 留任

【副監督】 安田 太(46回) 留任

以上の通り選任され、選任者もこれを了承する。

以上で総会は終了し、場所を隣の宴会場に移しOB親睦会および現役卒業生と新入生の歓送迎会を行う。

入江先生のご冥福を祈って

柔道部OB会



平成16年7月25日(日)正午 50周年記念館7F同窓会ホールにて、本年2月22日にご逝去されました、前柔道部部長入江 正先生の偲ぶ会を、75名の参加を得て執り行いました。入江先生との数多くの想い

出を語り合い、柔道部の発展のために、現役及びOBが丸と成って努力する事を遺影に誓ってP.M.2:30に散会いたしました。

平成16年3月5日、岡山市で行っていた学生達の合宿練習を終えて大阪への帰途、突然車の中で携帯電話が鳴りました。現部長の大橋先生からの、入江先生の悲報でした。胸にドンと大きなショックを受けました。この時既に亡くなられてより2週間が過ぎていました。誰にも知らせないようという先生の遺言だったようです。実に入江先生らしい身の処し方で、人に迷惑を掛けたり、氣を使わせたり等を、なさらない心使いではなかったかと思いました。

振り返ってみますと先生に柔道部の部長を引き受けて頂きましたのは、昭和35年、私が大経大に入学した年でした。それから昨年の3月末まで、43年という長い間、柔道部の学生のために、入学の事から、単位の修得、ゼミナール、卒業、就職、等々自分の事を捨て置いてお世話頂きました。私も先生より監督のご指名を受けてからは、推薦入学の事、予算の事、学生との対話の事など色々のご指導を頂きました。

毎年柔道部員の卒業送別会の折には「君達は大経大を卒業したので

はなく大経大の柔道部を卒業したのである」とのスピーチや、関西学生柔道大会には毎試合、大阪府立体育館や近大記念体育館などへ応援に来て頂きました。初めて我が柔道部が全日本大会に関西の代表として出場しました時に、我が事のように喜んでいただいた事等は、忘れられない思い出であります。人は、一生の内に自分を善意に導いてくれる人が何人かいると聞いております。入江先生は正しく私にとりまして又、柔道部員及びOB諸兄にとりまして最高の指導者であり、良きご縁に恵まれたと心より感謝致しております。入江先生長い間本当に有難うございました、どうぞ安らかに眠り下さい。

柔道部監督 児玉道憲(30回)

湖北に集い再会を喜び

寄多郎会(24)28年卒柔道部OB親睦会の両日、びわ湖の湖北木ノ本町に在る己高庵(ここうあん)にて第19回、寄多郎会を開催しました。

当日、車で早く到着した人達は、羽衣伝説が残る余呉湖を周回し、江戸時代の宿場町の風情が残る木ノ本の町を散策。定刻15時には参加者全員がそろい、一年ぶりの再会を喜びました。夜は、柔道部OB会会長

経翔会健在なり、38名ワンダラー集う

ワンゲルOB会

「道遥歌」は若手が、「学歌」は還暦過ぎのワンダラーがエールを切り、宴会場いっぱいになって歌う。

大阪駅のコンコースの出発式、合宿最後の解散式で歌った若き日の私達を想い浮かべて一緒に声を張り上げる。

人はだれもそんなキラキラした青春の日があつたんだと、平成不況、イラク戦争一周年の3月20日、それぞれの立場で「ヨシ頑張ろう」また「スローライフでやろう」と思いを新たにしたりであった。



47士が姫路に集った総会合宿から5年振りに大阪で38名が一堂に会し



の吉田先輩(24回)より母校柔道部及びOB会の近況報告があり、後、宴会に入りました。

今年の宴会は、この寄多郎会の名付親でもある大道関治先輩(25回)が6月に亡くなられたこともあり、心なしか寂しいような雰囲気でしたが、宴が進むにつれて何時ものように、学生時代の思い出話に花が咲き、和やかで楽しい宴となりました。

翌7日は、近くの十一面観音像(重文)がある石道寺と高月町の国宝十一面観音像が安置されている渡岸寺を拝観し、長浜市内で昼食をし、後ガラス館や市内を少し散策した後、来年こそは全員元気で再会しようという約束して散会しました。

——この24日後の11月30日、私と

た。遠くは長崎、山口から千葉まで津々浦々の60代から30代が集まった。ワンゲルの現役も、風前の灯から今春4名の若き後継者が名のりを上げ、また私たちの踏み跡を辿って再生することになったとの事務局の報告に、一同安堵し喜び合った楽しく愉快な一日になった。

今回、200名を超える案内を送し、経翔会(ワンゲルOB会)名簿248名が整備された。また、事情あって、途中で退部した3名が賛助会員として加えられた。

富士本 章(31回)

16年度総会で 中山健新OB会長を選出

硬式庭球部OB会

晴天に恵まれた5月30日、江口グラウンド体育館で平成16年度硬式庭球部OB総会を開き、平成15年度事業、会計報告を承認、引き続いて任期満了にともなう役員改選に入り、森川英雄前OB会会長(36年卒)の顧問就任にともなう後任会長に中山健氏(前副会長、38年卒)を、副会長に秋山治信氏(46年卒)を選出、副会長の山本恵一氏(58年卒)事務局長の仁川勇氏(61年卒)会計幹事の桂秀紀氏(60年卒)をそれぞれ再選しました。

なお、奥本敏雄氏(33年卒)は名誉

共に当番幹事をしてくれ、元気だった源 幸夫君(25回)が急逝されました。昭和60年の発足以来、メンバーが1人も欠けることなく18年続いてきましたが、平成15年は2人も欠ける厄年となってしまいました。ここに、お2人のご冥福を心よりお祈りします。 逸見 学(26回)

31回目の集いを小豆島で開催

経雄会

卒業して15年後にスタートした我が経雄会は、今年で31年続いて31回目の集いを、平成16年2月に会員の山下に住む小豆島で開催した。当日は高波で天保山の高速艇が欠航し姫路回りのフェリーで島に渡った。本土からの4人はガラ空きフェリーで弁当とビールを飲みながら不慣れた島国住人の苦勞を体験した。

97年の瀬江に投稿した頃には10人中9人が出席していたが、今回は川村敦朗、中川清男、藤原信雄、山下治也、山本清隆の5名が出席した。欠席は病後のリハビリで北田勝康、現役経営者の広瀬勲、そして空手道部現役時代にみんなが指導を受けた先輩、平野廣士氏が他界され弟の平野昌伸が欠席した。阿部功と頼藤五郎は行方不明で連絡が取れなくなつた。

参加者は減ったが、会えば楽しい、

顧問兼総監督として、田淵公孝氏(54年卒)は監督として引き続き現役の指導に当たっていただき、また森川英雄顧問は経大体育連絡協議会監事として、今後とも尽力していただくことになりました。

当日は総会を挟んで恒例のOB戦が行われ、久しぶりにラケットを手にしたOB諸氏がコート上で心地よい汗を流し、大会終了後中山新会長から森川義一氏(34年卒)、秋山治信氏(46年卒)に優勝トロフィーが手渡されました。「今回はじめて平成になってからのOBが参加していたのだ。それも奥さんと子供さんを連れての参加でしたが、今後も家族ぐるみでの総会に参加していただくことを望みます」との会長挨拶で、平成16年度総会ならびにOB戦を終了しました。

森川義一(25回)

中央大学OBと復活交流試合

サッカー部OB会

去る平成16年4月11日(日)に、中央大学OBとの定期戦復活交流試合を行いました。

年齢は50歳以上のシニアで、昔ならした昭和31年度当時の優勝メンバー、山本主将(23回卒)、陶山氏(24回卒)、神戸氏(26回卒)、又、昭和49年の優勝監督浅海(32回卒)と、コーチ福田氏(35回卒)、津田主将

誰かが言った、「年に1回と言わず、もう何回でも会おうやないか」そうだ、遊びや旅行の計画さえ避けなければいつでも会える。恒例の経雄会の総会は毎春1回、そしてドリンカーズ分科会は夏秋冬の3回と決めた。

「わしは大経大行って、空手して良かったと思うわ……」間もなく古希を迎えるジジイの一人がしみり呟いた。

中川清男(25回)



(41回卒)、射場氏(41回卒)……その他多くの御参加を頂き、和気あいあいと怪我もなく楽しくプレーをすることができました。結果は1-0で勝利し、試合後は満開の桜の下でゲストチームの立教大OBと尼崎市の女子チームを交えて楽しいひと時を過ごしました。その後、来年の再戦を約束して散会致しました。

このように、60歳以上の諸先輩方の元氣なプレーを拝見し、頭が下がる思いでした。いつまでも、健康でありたいと願うものです。

サイクルサッカー専用コート完成

自転車競技部OB会

近況で特筆すべきは、日本でも数少ないサイクルサッカー屋外専用コートが、今春完成したことです。

ご来賓、阪大、関大の学生諸君、多くのOB諸氏のご出席を得て地元



の大隅神社神主様による安全祈願の神事を執り行わせていただきました。

この競技は、30数年前にヨーロッパより導入され、関西において大経大、京大がその草分けであり、わがクラブは第1回関西選手権優勝から始まり、今日までつねに中心的な存在で活躍してまいりました。今回事業力の向上が期待されております。昨年秋45周年記念総会を終え、来る50周年は盛大な催しになるようさらに強力なるOB会活動を進めてまいりたいと思っております。

大宮幸二(37回)

意見要望書を提出

「体連協」の活動

体育会連絡協議会

大経大のスポーツ施設はどんなレ

ベルにあるのか。体連協は、今春茨木・摂津グラウンドを、関係クラブの各OB会会長達で現場視察し、環境改善の意見要望書を大学に提出した。また他大学の状況についても、多くのOB会諸兄の努力により調査把握し、年末までにはとりまとめ今後の参考資料として提供できる予定である。

アテネオリンピックでの日本の躍進は、選手・コーチのプロ化と活動資金の重点的投入の成果である。大学スポーツも同様、その方向性を明確に打ち出さねば結果につながらない。スポーツによる大学の知名度向上には、今後どのような強化策が有効なのか。体連協は模索している。卒業生諸兄姉のご意見を是非お聴かせください。

会長 鯨島 圭(18回)

約15年ぶりのOB総会に37名が出席

速記研究部OB会

2004年2月22日リーガランドホテルにおいて速記研究部のOB総会が開催されました。平成元年ごろまでは現役の手によって毎年開催されていたのですが、研究部自体が廃部となり開催が途切れておりました。最後の開催から約15年が経過し、その間卒業年次内の交流はそれぞれ



続いていましたが、全体を対象とした総会を是非実現しようと言うことになり今回に至りました。

速記研究部は昭和36年に第1回のOBを送り出して以来、平成4年まで200余名のOB・OGを輩出してまいりました。その中で住所が判明している176名の方に呼びかけましたところ、多くの方々の賛同を得ることができました。当日は都合のつく37名の方の参加をいただきました。千葉県や広島県といった遠方よりの参加もあり、待ちに待った総会の開催という感じがございました。会場では感動の声といってもよいくらい、歓声がそこかしこで上がり、スタートと同時に盛り上がりは最高潮に達しました。各年次ごとの近況

創立35周年記念OB総会盛大に開催

法学(律)研究部OB会

平成16年OB総会幹事一同

2004年6月26日、自公政権による憲法無視の自衛隊の海外派兵、憲法改悪の動きが進行する昨今、近江の国「かんぱの宿彦根」にて記念総会が開催され、当日は多忙の中、全国から11名のOBが参集しました。大家(36回)による開会宣言の後、星加会長(26回)による祝辞、多賀顧問(24回)による乾杯の言葉で始まった懇親会のムードは最高潮に達し、旧交を深める酒杯と会員によるユニークな近況報告と事務局から経過報告が行われました。記念撮影の後、濱田(38回)指導による恒例の



「道遙歌」を全員力強く肩を組んで合唱、八木(33回)による力強い万歳三唱、熊本からかけつけた濱(35回)が閉会宣言、二次会は彦根港近くのカラオケを貸切つて、タイムスリッブを満喫しました。

今回も母校同窓会事務局様には、御支援いただきありがとうございます。奥 正信(36回)

青春彷徨・演劇部の同期

劇研「青春の会」

名門高津中学出身の陰下君と高校寮歌をよく歌った。昭和23年春、本校学生自治会で学生愛唱歌を募集した。その折私の作品が選ばれたのは、



中村行男(16回)

20節に及ぶ道遙歌の長さだと選考委員の彼から聞かされた。当時演劇部員の私は激しい片思いの恋に身を燃やしていたから、詩想が白雲の如く湧き出た。劇研同期には陰下と彼を継いだ現会長の田中、脚本の伊藤、洪い演技の内田、照明の中山、プリマの中谷さん、二枚目の箕形、青年役なら山口の諸兄姉がいて、皆光っていた。某日、部室で熱中の花札を先輩にとがめられ、4人は電車に乗り、住吉大社の樹陰でまた開帳したのも昔のこと。私の他は名譽のため名を伏せる。

以来半世紀、美術の伊藤君が先年亡くなった。世は無常である。地域で35年の長きに渡り漢詩の吟詠指導に尽力された我が吟詠部の高上安史先輩(32回)が、地元広島県御調(みつぎ)町から吟詠指導と普及を通して文化の振興に寄与された功績により表彰されました。先輩は現役時代に培った経大魂をもって、長きに渡り、漢詩に託された作者の心の解説と吟詠指導を地域吟詠愛好者に続けておられたこととです。

われらの先輩表彰さる!

吟詠部OB会



表彰状

高上安史様

あなたは長年にわたり吟詠指導を普及を通して本市の文化振興に寄与されました。その功績は誠に大であり、御調町表彰条例より記念品を贈り表彰します。

平成十六年二月二日

御調町長 若林 茂生

現在、40年続いた吟詠部は残念ながら時代の流れにより部員ゼロとなり、休部の事態となり寂しい限りですが、後輩の1人として日本古来の文化である漢詩吟詠の普及のために、後に続けたいと思うところであります。

竹本 勇(瑞鼓)(35回)

大学に花木を!

春秋会

11月に予定しておりました春秋会の会合は、講演者にテレビショッピングでお茶の間の人気を得ているジャネットたかたの社長で、同窓生である高田明氏と折衝していましたが、非常に多忙なため時間的に調整がつかず、延期することになりました。またの機会を期待しております。

大学では9月にC館の完成を見、キャンパスは一新されました。守衛室が移動した跡に、花の少ない学内にせめてものうらおいをと思い、韓国の国花である木槿(むくげ)を隣国との友好に想いを込めて3本と、百日紅(さるすべり)という、いずれも真夏に花が咲く木と、加えて春に咲く平戸つつじと十里香とも言われる金木犀を春秋会から寄贈いたしました。ご来学の折、ぜひご観賞ください。

西山昭吾(16回)

京都東福寺の散策と 中村九一郎先生を偲ぶ会

九一会(中村九一郎ゼミOB会)

本年は中村九一郎先生が永遠の旅立ちをされてから数えて7年目になります。この7年目にちなんで平成16年10月31日に、JR京都駅前に集合し、先生がこよなく愛された京都第二の由緒ある古寺であり、紅葉の美しい臨済宗大本山・東福寺をたずね散策を行いました。

寺内を散策後、恒例の偲ぶ会と総会を、これも先生の馴染みのJR京都駅前の京都ルネサンスビル3階にある中国料理店福幸で開催しました。



教職関係者の集いにご参加を!

大樟教育研究会

この店は先生が同窓生をよく連れて行かれた店なので、記憶に残っている出席者も多く、思い出に話はずみでした。最後に本年の9月に亡くなられた、総会の常連であった昭和30年卒業の内海哲雄先輩のご冥福も併せて祈って会を終了した。

中村恵信(40回)

本学には、教育関係の職場で活躍する同窓生が、全国に700名を超えて存在する。この教育同窓生の力を結集しようと、昨年より現役大学生の教職希望者をも含めた他大学でも類例のない「大樟教育研究会」が発足した。今年度は8月7日に母校で60名の参加者のもと、熱心な意見交換・討議がなされ、予定時間をはるかに越えるほどの盛況であった。また同窓会・大学関係者も多数参加され、要望意見にも耳を傾けられ、地盤はさらに固まった感がある。

基調講演では、近藤秀麿名誉教授から教育界の回想、今後の展望への示唆をいただき、参加者一同強い感銘を受けた。次回もぜひご参加いただき、母校発展のため、ご意見・ご要望をお願いしたい。

会長 真鍋一美(32回)

税理士大樟会定期総会 及び研修会報告

税理士大樟会

第13回定期総会及び研修会が去る平成16年7月16日(金)に阪急タリミナルビルにおいて開催されました。総会に先立って午後3時より研修会が開催され、税理士岩崎久一先生を講師に迎え「不服審査事務について」をテーマにご講演頂き、審判所のあらまし、審査請求書の手続き、最近の不服申立て及び訴訟事例に至るまで、こと細かく懇切丁寧にご教授頂きました。

午後5時より定期総会が開催され、諸議案すべて異議なく承認されました。本総会において役員任期満了による役員改選が行われ長谷川宗平前会長が再選されました。引き続き午後5時30分より懇親会が行われ午後8時ごろ閉会しました。

堀田 治(48回)

OB・現役の交流を 続けています。

竹中グループ大樟会

竹中工務店グループのOB・現役を含めて41名の会員で構成しています。OBが16名と増え、高齢化を心配していましたが、近年後輩の入社が増え(今年は女性が初めてグルー

同朋中西久雄君を偲ぶ

日立大樟会

「別れといえば昔よりこの人の世の常なるを」のセリフではありませんが当会の主要メンバーの中西久雄君(29回)が昨年暮れ、何の前ぶれもなく他界されました。64歳のあまりにも早い旅立ちでありました。思えば経大現役時には風前の灯し火であった証券研究部をよみがえらせ活躍した伝説は脈々と現在まで存続していますし、縁あって入社した日立金属商事では、いつも人の輪の中心にいて、いかに苦しくても嫌な顔をする事もなく会社の重責を担い通しました。また、退職後は母校同窓会

辻 和雄(38回)



行事に極めて熱心で当会には勿論のこと、同窓会総会、春秋会、同期会、支部総会等、東京から山口から、常に皆勤賞ものでした。しかも70周年記念事業に於る募金活動や、17歳からのメッセージ立ち上げ時点で当時担当していました小生に、広島と山口地区を同行して共に回ってくれという熱の入れようには頭の下がる思いで一杯で計り知れない勇気を存分に貰いました。これからの私共はこの熱き灯し火を消すことなく、日々精進に心がけることを誓いつつ、今は亡き友のご冥福を心からお祈り致したく存じます。

国西良昌(29回)

経大山小屋

ワンダーフォーゲル部OB会

北アルプスの北部、白馬連峰を西に望む梅池高原に、経大白馬ヒュッテがあるのをご存じですか。44年前に山岳部が36トン余の資材を自分達の肩で荷揚げして、建築費の3分の1にあたる運搬費を浮かせて建てたものです。現在、大学の管理下にあつて、電気も引かれています。便所などは溜置き式(俗にポットン便所)で、昔の山小屋感覚で造られています。1階は食堂兼広間、台所、2階は1個室とあとは上下2段の蛋棚式の寝室になっていて、20〜30人の宿泊(シュラフ・寝袋を持ち込めばそれ以上も可)ができます。

場所的にはJR白馬大池からバスとパノラムウェイ(ゴンドラリフトとロープウェイ)を乗り継げば1時間程で海拔1829メートルの自然園に労なくして立てます。ヒュッテへは簡易舗装の林道

を下れば徒歩10分余、ロープウェイからも上部駅手前の樹林に見ることが出来ます。上の林道から、コマツガの樹林越しに白馬三山(鍾ヶ岳、杓子岳、白馬岳)を中心にした峰々の雄大な絶景が広がります。ここを拠点に、近くの神ノ田園、梅池自然園の高層湿原へのハイキング、また天狗原、乗鞍岳、白馬大池などの日帰り登山などいろいろな楽しみ方が出来ます。しかし、現状ではごく一部の山好きな者しか利用していないので、宝の持ち腐れです。

便所を環境保全のためバイオ式にし、洗面所を設置したり、さらに台所や寝室を少し改善すれば、学生、職員、同窓生に広く利用され、一般的な野外活動の拠点になるのではないかと思います。

富士本 章(31回)

新著を出しました。

家近 良樹先生

つい最近幕末維新期の徳川慶喜に関する小著を出版しました。実は、大多数の日本人が知らないことですが、慶喜は慶応3年に実施された王政復古クーデターを事前（3日前）に知らされていた。つまり、彼はクーデター計画を潰そうと思えば、簡単に出来たのに、あえてそうしなかった。何故慶喜はこうした行動を採ったのか。こういったことを記した内容の書物です。読んでいただければ幸いです。

「はじめて学ぶジェンダー論」を出版

伊田 広行先生

04年には『はじめて学ぶジェンダー論』（大月書店）を出版しました。1度しかない人生の優先順位などを考え、04年度末で大阪経大の専任教員をやめ、非常勤で講義のほうだけで関わらせていただくことにしました。今後はこれまで以上に自分のしたいことを余裕をもたせていきたいと思っています。

13回目のゼミ募集で思いっきり

伊藤 幸雄先生

経大での13年が、前任校より長くなりました。200名以上もゼミ卒業生を送り出したことになりました。その人数に驚くとともに、あつという間に過ぎてしまったかと思う今日このごろです。伊藤幸雄ゼミ卒業生の皆さん、私のメルアドに近況報告して下さい。
Email: ion@osaka-u.ac.jp

「小事は大事」という関係

稲場 紀久雄先生

私は、今年の6月、長野県の田中知事から水直し政策の一翼を担う「下水道見直し検討委員会」の委員を委嘱されました。ある団体のホームページに書いた5000字足らずの短い文章が知事の心を動かしたためです。この委員会は、昨年1月に設置され、今年の3月には10万字を超える膨大な報告書を出しましたが、知事の心を動かすことはできませんでした。「大、必ずしも大ならず。小、必ずしも小ならず」という言葉が脳裏を去来します。

神戸大学へ1年間の国内留学

片山 麻美子先生

お元気ですか。秋から1年間国内留学のため神戸大学で研究します。教壇を離れ、今までの研究を整理して帰って来たらまたがんばります。相変わらず18世紀半ばの英詩を読んでいます。最近はいギリシアやウェルズの歴史にも関心があり、ここ数年現地を訪れて当時の古代ケルト熱など調べています。ニュートンの時代にケルトの研究も盛んになったんですね。卒業生の皆さん、仕事を振り返る環境は厳しいですが、がんばりましょう。

定年後も大忙し

久保田 諄先生

昭和41年以来勤めてきた経大も今春で定年となり退職しました。しかし、まだ3年間は特任教授として引き続き授業を担当しています。年をとるといろいろ雑用が増えます。兵庫県立西はりま天文台の運営委員の他、文科省特定領域研究「江戸のもののつくり」では、江戸の望遠鏡を調べています。また、私の住む地域の文化を調べる「賀茂文化研究会」ではトヨタ財団の援助で活動しています。その他、

5月の葵祭りは役員として奉仕があります。

3年目を迎えた人間科学部、目を見張る1期生の成長ぶり

黒木 賢一先生

大阪経済大学の人間科学部に赴任して3年目に入った。1期生も3年になり、この秋から就職活動が始まる。入学時は幼さが残っていた学生たちも立派な青年に変貌している。授業で結構レポートを提出させるのだが、文章力、思考力、自己表現などが、目を見張るほど成長している。また、ちょっとした話でも、おどおどせず話してくる。青年期後期を生きる彼・彼女たちを見ていると頼もしくなり、1期生の就職活動に期待が持てる。

公務員試験対策サークルで学力向上に取り組む

桑原 武志先生

地域政策学科では、毎年、公務員試験を目指す学生が学年の3分の1程度います。よって、今年のゼミでは、特に公務員を志望する学生を募りました。また、公務員試験対策サークルをつくりましたが、学生自ら、春学期に「判断推理」などの学習会を行ったり、「経済学検

定試験」、「法学検定試験」を積極的に受験するなど、学力向上に取り組んでいます。公務員の仕事についてお話しただけの方がいらつしやいましたら、是非ご連絡ください。よろしくお願いします。

ジョギングと私

黒坂 真先生

卒業生の皆さん、お元気ですか。私は1年ほど前から、ジョギングの楽しさに目覚めました。この夏休みは殆ど毎日のように、1日12〜13キロほど走っていました。毎日1時間ちよつとですが、良い運動になりました。おかげで、1年で10数キロ痩せました。それまでが太りすぎだったので、現在の私が痩せすぎているわけではありません。

何事も、健康が基本ですね。皆さんも毎日の仕事で忙しいことと存じますが、様々な健康法で体を大事にしてください。

優れた大学教育による社会貢献を目指して

古宮 昇先生

先日、効果的な大学授業の方法についての本を執筆しました。学生たちに単に大卒という履歴

をつけるだけではなく、彼らにとって意味のある優れた教育をしたい、と願って日々取り組んでいます。良い教育をすることは、本学が社会にできる大切な貢献の1つだと思います。

上新庄に途中下車

桜井 三枝子先生

時折琵琶湖合宿などの写真を見ては、今頃ゼミ生達はどうしているのかしらと懐かしく思い出しています。不透明で先の見えない状況の中ですが何とか生き抜いていて欲しいと念じています。

本学は建物だけが改築・新築されただけではなく、カリキュラムやIT技術を駆使した授業を常にリニューアルしています。図書館やカフェテリアの利用もして欲しいですし、「出戻り聴講生・院生」を熱烈歓迎もしています。

インターネットを使って英語で意見を発信

瀬岡 吉彦先生

本学にお世話になって間もない

ゼミ4期生の同窓会を開催

滝内 大三先生

ので、今年度、はじめて卒業生を出します。英字新聞を読んで正しく世界情勢を理解し、それを正しい日本語に直し、さらに正しい英語で自分の意見をインターネットで世界に発信する訓練をしています。なかなか理想通りにはいきませんが、学生とともに頑張りたいと思います。

久しぶりに、尼崎市消防局の河本君の幹事によるゼミ4期生の同窓会が初天神側の中華料理店で開かれました。中には息子さんが20歳になっている人もいて、みなすばらしい人になっておられました。うれしくて、ついお酒を飲み過ぎましたが、語り尽きせぬ話題に時の過ぎるのも忘れ、この次はぜひ1泊の同窓会を開こうということになりました。住所の確認には同窓会本部の方に大変お世話になりました。2005年3月にはゼミ全体の同窓会を1泊2日で予定しています。参加してみようと思う方はご連絡下さい。詳細をお知らせします。

〒603・8106

京都市北区紫竹下長目町3

電話 075・493・6390

090・8468・5223

最後のゼミ

中川 操先生

今年の4回生で私のゼミは最後となります。卒業生からの消息を聞くと大変嬉しいのです。今年は米国大学院で国際経営学修士学位を取り現在千寿製薬ロスアンゼルス赴任中の杉岡武優君が留学中に知りあつて結婚しました。今年も約2カ月スポーツケン市で過ごしました。昨年ゼミ卒業生の中村光臣君が大学院在学中にアメリカの企業にスカウトされ、学業を続けながら同時に正社員に採用されました。この大学院にはもう1人今年の経大卒業生が在学中です。9月に4回生の松田君がスポーツケンに遊びにきてくれました。アムトラックとバスで西海岸を廻る旅の途中でした。中川昭君（経大で英語を教えています）に続いてスポーツケンの大学院でTESOLでMAをとった雲田貴之君が高校の英語の先生になりました。私にとってはオリンピックの金の数やイチローの快挙のニュースより卒業生のニュースを聞く方がうれしいです。

ゼミ活動について

藤本 高志先生

ゼミでは、学生が環境や農業に関する課題を自由に決め、ローテーションで報告します。今年のゼミ合宿では、奈良県の川上村へフールドワークにでかけました。紀伊半島の山中の過疎の村です。間伐体験をしたり、森と水の源流館を訪れたり、村が保全する原生林を歩いたり、水源の村づくりについて学びました。自分が飲む水がどこから来るのかも知らなかった学生ですが、都市と農村がどのように関わっていくべきかを考える機会になりました。

ゼミ一期生の卒業

藤本 芳張（義治）先生

この3月にゼミ一期生が卒業しました。彼らが3年の前半のゼミでは、堅苦しい雰囲気がありましたが、ゼミ旅行、コンパなどをやるようになって親しくなりました。卒研レポートも、しっかりしたものを出してくれて感謝しています。新鮮な気持ちを持ってました。

彼らは私の一期生でもあり社会に送り出すことができ、うれしくもありホッとしているのが今の気持ちです。

持です。

台風とゼミ旅行

松原 和男先生

沖縄へのゼミ旅行で台風18号に直撃されました。台風が本土へ去ったので、空港でキャンセル待ちをしていた数千人の人の横目に見て、予定通り帰ることができました。

十数年まえのグアムへのゼミ旅行でも同じ経験をしています。風速70メートルを超える猛烈な台風、外出もできずホテルで話し合ったことがかえってゼミの親睦を深めたと思います。そのときも帰りの便から空港が再開され無事に帰りましたが、私のゼミは変なところまでツイていたのでしょうか。

2年ぶりですね。

間野 嘉津子先生

同窓会とゼミOBの皆さん、その後もお元気で活躍のことと思います。私は昨年3月、イラク戦争開始と同じ頃に出国して1年間、フランスに在外研究に行ってきた。四季を通じて外国に住むということは、かけ足で旅をするのとは全く異なり、非常に有意義な体験を多くしてきました。今後は

この経験を活かした授業をしたいと考えています。昨年のパリは猛暑で今年は冷夏だそうですが、今年の日本の夏は猛暑ですね、ご健勝を。

国立大学との違いを感じる日々

宮川 敏治先生

4月に本校に赴任し、前任の国立大学との違いを少し感じています。教育は、本校では熱心な一部の学生だけでなく受講者全員が理解できる教育を行おうとする雰囲気があります。研究は、これまでは「 refereed journal」に掲載されるような研究をしなければならぬ」という雰囲気がありましたが、ここでは各人の自由な研究が許されているような気がします。どちらが良いのかはこれからじっくり考えていこうと思います。

並木のある道

六浦 英文先生

ナミソム（南怡島）のメタセコイアの並木道、ベルリンの菩提樹の並木道、パリのプラタナスの並木道、北大のボブラの並木道、表参道のケヤキの並木道、御堂筋の銀杏の並木道……。絵のように美

しい風景が忘れられない。もし並木が理不尽な理由で切り倒されたら、その殺伐とした風景に愛着を感じることができなくなるか。そのようなところでは、文化の花咲くこともなく、人も切り倒されていくのだろう。

コミュニケーション・ツール

山野 紘一先生

3年のゼミ生の多くは、夏休み期間にインターンシップで就業体験に参加していた。その活動状況等の交換をPCのテキストのみの会話ツールを使って試行した。その時点で最もリアルな仕事の内容、問題などをゼミの場で議論しているのと同じような情感で、示唆や激励をすることができたようだ。会話ツールはPCがあるところなら、どこからでもいつでもオンラインでつながり、ヴァーチャルな対話の場が作れ、複数人参加の会議もできる。IT技術でいろいろのコミュニケーション・ツールが利用可能になってきているが、それらを有効に使いこなしていききたいものである。

暑い夏

吉井 康雄先生

講義中「人生を如何に生きるべきか」「社会への貢献」など諸君に伝えたメッセージを思い出してください。大学の使命、教職員の役割が問われる今日、アカハラを受けた私は公明正大さ、透明性をめざし、学部教授会に経営提言。逆に7月、ある教授より名誉毀損で人権委員会に訴えられる。身分保全を求める私の願いにもかかわらず、その訴状は閲覧のみのこと。私が公明正大に裁かれるかに着目し、何が真実か、どうあるべきかを是非考えてください。



理事会報告

平成16年度同窓会理事会総会開催

平成16年度同窓会理事会総会は、さる6月26日（土）本学50周年記念館、E館41教室で開催され、平成15年度事業報告、収支会計報告を承認、平成16年度事業計画、同収支予算案を可決し、総会終了後は、会場を同窓会ホールに移して、渡邊前学長ら学校関係者をまじえた懇親会に移り、和やかな交流の輪を広げた。

同窓会活動を通じて学生のレベルアップに貢献

総会は津秋靖博副会長の開会

辞に引き続いて田中富三会長から「会長就任以来、フェア・オープン・スピードを合言葉に、会員へのサービスの一環とした情報公開の充実、同窓会活動を活性化するための卒回理事との懇談、母校発展への連携と支援策として、大樽教育研究会の発足、OBと学生の対話集会などを行いました。とりわけジャパネットたかた社長の高田明氏を招いた講演会は好評でした。さらに「地域に開かれた大学」への支援策として、フリーマーケットやパソコン教室、無料税務相談会の開催など、さまざまな活動を展開してまいりました。ただ、残念な事に大学が北浜の証券取引所にビルに大学院を開設するに伴い、同ビル内に同窓会サロンの開設を考えておりましたが、適切な場所を確保する事ができなくなり、北浜でのサロン開設は見送らざるを得ない事になりました。今後事務局を中心に候補地を検討することになりました。いずれにしましても、同窓会活動を通じて、何処に出しても恥ずかしくない精神力を持った学生を輩出できるよう協力していく所存であり、同窓会諸氏のご支援、ご鞭撻をお願いいたします」との挨拶があった。

質疑応答はなぜか会計処理に集中

会長挨拶後、水納事務局長の司会のもと議長に森川義一氏（25回卒）副議長に佐藤武司氏（30回卒）を選出、議事に入った。

まず、平成15年度事業報告を小谷芳男総務部長から、同収支報告を福元輝雄副会長、財務部長から、監査報告を植村祐三監事から報告があり、これに対して白井正幸理事（26回卒）から「ペイオフ解禁に伴い、普通預金をどうするのか」中村敏啓理事（31回卒）から「なぜ銀行の数ばかり増やすのか」「ペイオフに神経質になり過ぎていないか」「国債購入価格、手数料等の明確な説明がほしい」、平尾哲男理事（28回卒）からも「国債の利息が明記されていないのはなぜか」との質問があり、福元財務部長から「ペイオフ解禁に際しては定期預金に変更したい。その際、できれば同窓生の関係する銀行を利用したい」「流動的資産は当座預金に入りたい」「国債は発行時の入札価格による」といった説明がなされ、なお同様の質疑が行われたが、森川議長から「会計手法上の問題であり、別途協議してもらいたい」との旨、発言があり、1号議案を可決。引き続き2号議案の平成16年度事業計画、収支予算案について

事務局だより

本部役員一覧

2004.11.1現在

氏名	役職	卒回	氏名	役職	卒回	氏名	役職	卒回
田中 富三	会長	18	梅原 猛	総務部	62	佐藤 武司	組織部部長	30
津秋 靖博	副会長	29	森川 義一	広報部部長	25	太田 一澄	組織部	17
福元 輝雄	副会長	37	福地 利仁	広報部	39	宇藤 博文	組織部	28
陰下 嘉典	常務相談役	16	山内 淳子	広報部	47	福田 耕	監事	16
水納 敏也	事務局長	25	藤原 広太郎	広報部	54	植村 祐三	監事	32
國西 良昌	事務局長補佐	29	福元 輝雄	財務部部長	37	大西 健介	監事	35
神田 博	事務局長代理	30	梶村 貞男	財務部	37	磯野 斉	名誉会長	3
小谷 芳男	総務部部長	24	市原 幸恵	財務部	42	南部 俊一	顧問	9

同窓会支部長一覧

支部名	氏名	卒回	現住所	電話	E-mailアドレス
北海	田中 喜三郎	10			
北東	松谷 嘉隆	22			
富山	重松 尚	23			
石川	柚木 繁	21			
福井	吉田 和夫	20			
岐阜	長崎 郷一郎	29			
静岡	磯田 郷一郎	26			
愛知	明田 安生	25			
三河	英 成樹	38			
滋賀	正村 公一	27			
京都	南 和男	35			
大阪	太田 一澄	17			
○大阪市役所	福地 利仁	39			
北摂	石川 裕	28			
豊田	笠井 二郎	26			
池田	渡辺 泰敏	21			
堺	車野 修三	27			
○尼崎	堀本 修	24			
神戸	小谷 芳男	24			
丹波	進木 伸次郎	33			
○丹波	下土井 康晴	25			
明石	廣野 義直	34			
播磨	佐藤 武司	30			
淡路	永井 宏	19			
歌島	森口 鐵章	32			
○島根	長船 昭一郎	32			
岡山	西本 集一	23			
津浦	宇藤 博文	28			
備前	西山 林一	35			
岡山	浅原 宏	22			
徳島	小野 隆	35			
香川	竹本 巧	37			
愛媛	小池 勝章	32			
高知	北谷 重幸	32			
北九州	小林 真人	32			
○熊本	田中 良昌	26			
宮崎	岡野 敦	31			
鹿児島	小野 茂樹	26			
九分	野崎 邦男	32			
宮崎	植田 達三	52			
南九州	寒田 陽	40			
○南九州	濱 忍	35			
熊本	大盛 豊一	23			
宮崎	前園 博隆	34			
春会	西山 昭吾	16			
体育会連絡協議会	鮫島 圭	18			
池田銀行経友会	上田 敬二	18			
日立大樟会	国西 良昌	29			
税理士大樟会	長谷川 宗平	28			
大樟教育研究会	真鍋 一美	32			

◎…全国支部長会代表幹事

○…副幹事

『澱江』購読料のお願い

「自らの購読料で『澱江』を育てよう!」を合言葉に、昭和59年度からスタートしました『澱江』購読料は、お陰さまで深い御理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

編集子一同は、このご声援に応え、親しまれる『澱江』を目指し、頑張っておりますので、引き続き購読料へのご協力のほど、よろしくお願いいたします。
(ご送金は、同封の振込用紙をご利用ください。振込手数料は不要です)

創立70周年記念募金ご協力をお願いします。

「経大は変わったな。動いているな」という声をよく耳にします。ご承知のようにR&Iの格付けではA+となりました。これは関西で初、単科大学としても初であり大いに誇りにしたいと思います。

募金委員会としましては更なる学校の飛躍を願って平成17年4月30日まで引き続き募金活動を展開しております。昨今の社会状況は厳しいものがございますが、同窓生各位のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

本部だより

協議、平尾理事から「事務局人件費を削減しているが、何人分か」との質問があり、水納事務局長から「従来通り3人分です」との説明があつた後、拍手で承認された。
3号議案のその他の部で土手勘次理事(6回卒)から「私事ですが、所有するビルで困った事が生じた際、澱江でホーチキの社長がOBである事を知り、早速連絡を取り、大変助かりました。今後とも澱江やホームページを通じて経大人の情報をお願いしたい」との発言があり、大樟教育研究会の高橋努理事(34回卒)からは「少子化が叫ばれる中、本年度の受験生の数が横ばいに推移したといわれているが、英語を含む3教科試験実施のB、C、センター入試の受験生数の激減と偏差値は楽観できない」との厳しい報告があり、平成16年度理事会審議を終了した。
続いて行われた学内近況報告では、渡邊前学長から「時間がかかろうとも経大を少しでも良くするために学生のマナー向上に取り組みたい」との挨拶があり、場所を同窓会ホールに移しての懇親会では、佐々木一義前広島支部長の元氣溢れる乾杯の音頭で盃を挙げ和やかな交流の輪が広がった。

平成15年度収支決算書 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日

(単位: 円)

収入の部					支出の部				
科	目	決	算	額	予	算	額	予	算
前期繰越金				20,447,543					20,447,543
会費収入				56,856,000					55,400,000
総会収入				793,000					800,000
利息収入				96,406					5,000
澱江収入				649,250					500,000
名簿収入				213,550					100,000
雑収入				28,800					0
合	計			79,084,549					77,252,543
収入の部					支出の部				
科	目	決	算	額	予	算	額	予	算
総役員会費				5,273,085					7,000,000
支部費				2,080,086					2,500,000
支務費				7,452,092					9,000,000
人件費				738,296					1,000,000
旅交通費				7,268,940					7,800,000
広報活動費				3,744,210					4,500,000
広報活動費				17,065,196					19,000,000
名簿調査費				2,197,740					3,500,000
学対成費				5,875,480					6,000,000
諸会助成費				1,232,596					1,500,000
慶弔費				381,162					500,000
70周年記念事業対策費				3,236,790					5,000,000
特別基金繰入金支出				5,000,000					5,000,000
予備費				0					4,952,543
次期繰越金				17,538,876					0
合	計			79,084,549					77,252,543

平成16年度収支予算表 自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日

(単位: 円)

収入の部					支出の部				
科	目	予	算	額	科	目	予	算	額
前期繰越金				17,538,876	総役員会費				7,000,000
会費収入				54,000,000	支部費				2,500,000
総会収入				800,000	支務費				9,000,000
利息収入				5,000	人件費				1,000,000
澱江収入				500,000	旅交通費				7,000,000
名簿収入				100,000	広報活動費				4,500,000
					広報活動費				19,000,000
					名簿調査費				2,500,000
					学対成費				7,000,000
					諸会助成費				1,500,000
					慶弔費				500,000
					70周年記念事業対策費				3,500,000
					特別基金繰入金支出				5,000,000
					予備費				2,943,876
合	計			72,943,876	合	計			72,943,876

同窓会ホームページもご覧ください!

同窓会活動をより身近なものとして活用していただくために、HPを作成しました。年間行事予定や掲示板などがあり、住所変更の申請も手軽にできるようになっています。ご活用いただきご意見、ご感想をお待ちしております。

HPアドレス <http://www.osaka-ue-denke.com>





現在

おしゃれになった学食。
右は人気メニューの1つ「ハンバーグとジャケフライセット」

昭和
40年頃



学食の安くてボリュームのあるメニューは、
今も昔も学生たちの強い味方だ。

現在



最近、ステージの演出も
洗練されてきたけれど、
学生が中心となって企画・運営する方法は
変わらない。

昭和
45年頃



学生たちのアイデアとエネルギーで
盛り上がった大樟祭。

昭和
50年頃



授業風景も様変わりして、現在はプロジェクターなど
最新の設備が活用されるようになった。

現在



昭和
35年頃



現在



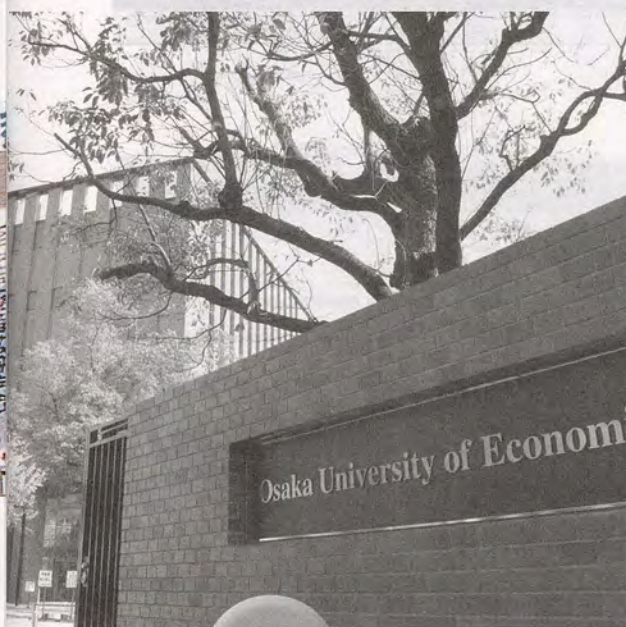
最近、より実践的な知識や
社会の動きに合った内容のテキストが多く用いられるようになった。

NOW AND 経大 THE PAST

そして開学70周年を無事終えた
現在の大経大は、
キャンパス内の設備もより便利に
グレードアップして、快適な環境でのびのびと
学生生活を送る生徒たちの姿であふれている。
すっかり様変わりしたけれど、
あの頃の純粋で一途な
情熱を受け継いでいってほしいと思う。

戦後の教育改革に伴って新制大学か
短期大学かの二者択一を迫られ、
当時の生徒は職員と一丸となって
大学昇格運動に情熱を傾けた。
昭和24年、晴れて大学に昇格した大経大は、
校舎も設備もまだ十分とはいえなかったが、
みなが明るい希望に燃えていた。

時代は移っても変わらない
青春の日々の輝き



現在

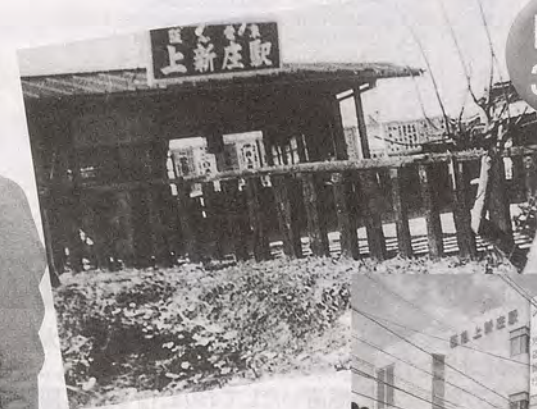
新しい校舎が立ち並びすっかり
おしゃれになった現在のキャンパス。

昭和
24年



「大阪経済大学」と書かれた真新しい
門標を掲げた正門。

昭和
30年



昭和30年頃ののどかな
阪急上新庄駅。
あの頃の面影は
今はまったく見られない。

現在



先端産業を学ぶ～情報・バイオ・ナノテク・エネルギー等次代を担う産業について、在阪企業を中心に第一線で活躍されている講師に学ぶ。

池澤直樹 株式会社野村総合研究所 コンサルティング・セクター・チーフ・インダストリー・スペシャリスト
 稲員裕三 株式会社日立製作所 理事 医療事業統括本部長
 大浦博 株式会社アドバンテスト 代表取締役会長
 香取一昭 西日本電信電話株式会社 監査役
 小林弘明 東レ株式会社 代表取締役専務取締役 技術センター所長
 五味千秋 大阪ガス株式会社 常務取締役

穴戸潔 三菱商事株式会社 事業開発部ナノテク事業推進室 室長
 田口裕也 株式会社日立製作所 研究開発本部技師長 工学博士
 長坂健二郎 万有製菓株式会社 取締役会長
 西岡郁夫 モバイル・インターネットキャピタル 代表取締役社長
 松本正 株式会社レクメド 代表取締役
 本林理郎 日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役副会長

証券投資理論と実践を学ぶ～資金調達と運用のノウハウや証券市場の読み方等について、各分野で活躍されている専門家に学ぶ。

足立真一 株式会社S・アダチ&カンパニー
 井土太良 イートレード証券株式会社 代表取締役社長
 稲野和利 野村アセットマネジメント株式会社 執行役社長
 乾裕 ユース証券株式会社 代表取締役社長
 上田繁治 高木証券株式会社 取締役社長
 岡本博 NPO日本テクニカルアナリスト協会 理事、評議員会長
 沖津嘉昭 岩井証券株式会社 代表取締役社長

鈴木隆 株式会社日経BP社 特別参与
 竹林靖雄 野村證券株式会社 顧問
 武樋政司 いちよし証券株式会社 代表執行役社長
 福井正樹 株式会社野村総合研究所 金融IT研究センター長
 森山治彦 コスモ証券株式会社 取締役社長
 山下哲生 日本アジア証券株式会社 代表取締役会長

不動産工学を学ぶ～都市再開発から不動産投資、さらには不動産の証券化まで、変化する不動産をめぐる環境を学ぶ。

川口有一郎 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 教授
 中野淳一 野村不動産株式会社 代表取締役会長

長島俊夫 三菱地所株式会社 常務執行役員 ビル開発企画部長
 横山雄司 三井不動産株式会社 常務執行役員 関西支社長

実践経営を学ぶ～実際の企業分析(ケーススタディ)を中心に、最新の経営戦略理論からコーポレートガバナンスやCSRまでを学ぶ。

有富慶二 ヤマト運輸株式会社 代表取締役会長
 池田守男 株式会社資生堂 代表取締役社長
 伊藤一郎 旭化成株式会社 取締役 兼 専務執行役員
 岩尾崇 株式会社長谷工コーポレーション 取締役副社長
 大野剛義 株式会社治コンサルタント 取締役社長
 笹島勝人 UBS証券会社 シニアアナリスト

清水倫典 モルガン・スタンレー証券会社 株式調査部 エグゼクティブディレクター
 永井隆 元富士電機株式会社 代表取締役副社長
 平井良介 株式会社リコ CSR室室長
 平形紀明 モルガン・スタンレー証券会社 株式調査部 エグゼクティブディレクター
 平田雅彦 エシックス・マネジメント 代表

起業を学ぶ～新たなビジネスモデルから後継者養成まで、経験に基づいた起業のアイデアとノウハウを学ぶ。

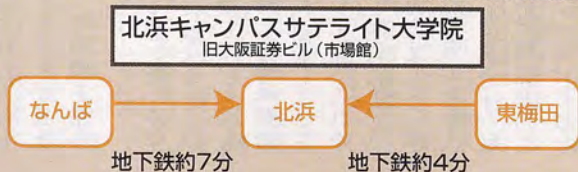
青木達也 株式会社ハークスレイ 代表取締役社長
 青園雅紘 株式会社CSK 取締役
 浅田隆治 ウッドランド株式会社 代表取締役会長
 池添吉則 株式会社アイディユー 代表取締役
 加藤寛二 ダイワボウ情報システム株式会社 専務取締役
 白橋弘安 株式会社東京証券取引所 総務部審議役 兼 東証アカデミー事務局長
 田中英司 ビービーネット株式会社 代表取締役社長
 田中邦彦 株式会社くらこコーポレーション 代表取締役社長
 津田晃 野村インベスター・リレーションズ株式会社 執行役会長
 長江芳実 株式会社ネクストジャパン 代表取締役社長
 中柴方通 株式会社荏原製作所 新技術企画知的財産担当 参与
 濱田佳治 株式会社アドバンスクリエイト 代表取締役社長
 文箭安雄 日本ベンチャーキャピタル株式会社 代表取締役会長

増山博昭 株式会社アイ・ビー・ビー 代表取締役社長
 森田昌宏 株式会社大塚家具 専務取締役
 森中一郎 株式会社エフアンドエム 代表取締役
 吉村一哉 株式会社クインランド 代表取締役
 渡辺邦昭 キャリア・クエストクラブ 代表取締役社長
 渡部隆夫 ワタベウェディング株式会社 代表取締役
 和納勉 株式会社クイック 代表取締役社長

*他に公認会計士・税理士を目指すカリキュラムも用意しています。また、上記講師以外にも数多くの著名企業人に講師依頼・調整中です。



外観イメージ図
 旧大阪証券ビル(市場館)の跡地に建設される、地下2階・地上24階の近代的なビル。その3階に、北浜キャンパスサテライト大学院が開設されます。



2005年4月、ビジネス街北浜に開設。

北浜キャンパスサテライト大学院

キャリアアップ、または資格取得。
 目的で選べるコース制を採用。

理論・実践的コース 企業人のキャリアアップを実現するとともに、ビジネスリーダーや起業家を育成します。

資格取得コース 公認会計士(CPA)、税理士、証券アナリストなどの資格取得をめざし、実践的に学びます。

アカウンティング&ファイナンスを
 柱に実践的な教育を展開。

北浜キャンパスサテライト大学院では、アカウンティング(会計)系とファイナンス系の科目をコア科目として重点的に学びます。企業が抱える大きな問題の1つであるリスクへの対処法について、アカウンティング系ではディスクロージャー(市場との対話)を、ファイナンス系ではリスク管理手法の技術的問題を取り上げて考えます。

■ 科目体系図

演習・研究指導 目的に応じて修士論文かリサーチペーパーのいずれかを選択できます。

修士論文またはリサーチペーパー

コア課目 アカウンティング系とファイナンス系を中心に学びます。

アカウンティング系 ＜公認会計士対応科目＞	ファイナンス系 ＜金融スペシャリスト対応科目＞
CPA財務会計論(1)	金融工学(マクロ・ミクロ)
CPA財務会計論(2)	資産運用論
CPA管理会計論	株価分析論
CPA監査論	不動産投資
CPA租税法	リスク・マネジメントとポートフォリオ
CPA企業法	コーポレートガバナンスとCSR
＜財務スペシャリスト対応科目＞	メガバンク経営戦略
金融商品の会計と税務	証券投資戦略
デリバティブとリスク・ヘッジ	コーポレートファイナンス
時価評価の会計と税務	企業再生とリエンジニアリング
一年金問題と減損会計のいくえー	企業合併とリエンジニアリング
国際会計基準	計量ファイナンス分析
IASBとASBJの会計基準比較	ディスクロージャー制度
連結会計と連結納税	メガ企業経営比較
一連結経営時代の経営者のためにー	実践企業論
キャッシュフロー会計	事業承継論
一キャッシュフロー経営の重要性ー	e-ビジネス
	先端産業論

基礎科目 企業人として必要な知識や能力を身に付けます。

プレゼンテーション・ディベート、ビジネス・エシックス
 IT実習、e-ラーニングの理論と実務

アカウンティング&ファイナンスを
 柱に実践的な教育を展開。

講義または演習は、平日夜間に2コマ連続(180分)、土曜午後3コマ連続(270分)で開講する予定です。この夜間と土曜だけで学位が取得できるように時間割が編成されています。

ディスカッションを
 取り入れた授業運営。
 コミュニケーション能力と
 チームワーク力の向上をはかる。

授業時間の半分は教員による解説、もう半分は教員と学生とのディスカッションを行います。一方的に解説を聞くだけではなく、ディスカッションによって理解を深めるとともに、コミュニケーション能力とチームワーク力も高めま。

アクセス抜群。仕事を持つ方は
 アフターファイブに通学できる。

北浜キャンパスサテライト大学院は、ビジネス街として知られる北浜の大阪証券所跡地に開設されます。北浜駅へのアクセスは、地下鉄で東梅田から約4分、なんばから約7分。しかも大阪証券所跡地は駅のすぐそばにあるので、通学にとっても便利です。

実業界の最前線で
 活躍している方を
 学外講師として招聘。

北浜キャンパスサテライト大学院では、大学教員があらゆる企業で通用する基礎理論を教え、学外講師が最新の事例でケーススタディを指導します。学外講師は野村総研、野村證券、松下電産といった企業で活躍している方々です。また、公認会計士試験科目は専門学校からの派遣教員が、ディベート系の科目は外国人の教員が担当します。

OB REPORT

有言実行、
自らにプレッシャーを掛け
奮い立たせる

さる7月28日、リーガロイヤルホテル3階の光琳の間は約1500人の招待客でこたえ返していた。鈴木油脂工業の創立55周年記念祝賀会が開かれ、挨拶に立った鈴木社長は「5年後の60周年には現在の売り上げを倍増して50億円を目指す。そして今度は30000人の招待客を招いて大祝賀会をやります」と豪語した。

後日会社を訪問し「社長思い切った目標を宣言しましたね」と語りかけた。「いや、何事も有言実行、内外に目標を宣言し、自らにプレッシャーを掛け、奮い立たせる。これが私流のやり方ですわ」と。

鈴木油脂工業は父親の鈴木幸三郎氏が昭和12年大阪市東淀川区で「鈴木油脂工業所」を設立、コンベヤーのベルトワックスの製造に乗り出したのが始まり。第二次世界大戦も終わり、まだ産業物資の乏しい中、昭和24年11月



鈴木油脂工業株式会社 代表取締役社長

鈴木 隆夫氏
(30回卒)

昭和39年3月大阪経済大学卒業後、現会長の兄と二人三脚で父が創業した鈴木油脂工業の事業拡大に注力、平成8年3代目として社長就任以来、女性営業部隊（ファーストフロー）の採用、特約店制度「S YKローヤル会」の発足など、独特の経営手法で業績を急上昇させている。

法人とし「鈴木油脂工業株式会社」を設立、昭和48年長男の鈴木桂祐氏が社長に、そして平成8年次男の鈴木隆夫氏が3代目の社長として就任し、今日を迎えた。

現在では主力の工業用製品に加えて強力カビとり剤「カビトリバン」、浴室専用洗浄剤「バスタブバン」、尿石剥離剤「尿石バン」といった、先進のケミカルテクノロジ商品と相次いで開発、家庭向けを意識したヒット商品の数々が、さらなるユーザーニーズを喚起するといった具合に、新商品が業績拡大に大きく寄与してきた。

これだけなら普通の会社と同じだが、鈴木流の経営手法はちよつと違う。それは女性軍団の活用だ。同社はもとも販売代理店主導の販売方針を採っていた。この販売代理店の営業マンに契約社員でファーストフローと称する女性を同伴させる。この契約社員は現在では150名を超える。「このファーストフローに1年前から単独訪問10万件構想を打ち出し、これまで販売代理店の営業マンと同行していたユーザー先へ単独で訪問する。つまり他者に依存しないという意識改革を求めたのです。客先の工場で率先して整理、整頓に協力し、時にはトイレの掃除もする。そうした中でユーザーとの信頼関係が生まれ、一方で販売店とも新たな関係が構築できていく」と、

女性軍団の活躍に大満足。

そして「いま一般家庭でシャンプーや洗剤、石鹸などに月間3000円は使っている。5・10人の会社でも手洗いなど消耗ケミカル商品で3万円ほどのお金を使っている。大きな売り上げ数字をやれといっているのではない。やる気があればこうしたニーズを積み重ねていって、無限大の売り上げが見込めるはず」という。

このファーストフローによる単独訪問で月間50万円以上の売り上げを達成すれば、鈴木社長自らがユーザーを紹介してもらった販売店に表敬訪問し、感謝の意を表することになっている。マジジンはこれまで同様、販売店に手渡すわけだから、販売店も歓迎する。「もちつ、もたれつ」の信頼関係が強まる。「これからはファーストフローに活躍の場を与えつつ、特約店のローヤル会員との信頼関係を深めて行く。5年後の売り上げ50億円達成は、そんな無茶な目標ではない」と、自信満々。

「今年女性6名、男子2名の経大生がインターンシップで当社にきた。専務時代から朝礼前の8時半から30分、空手体操をやっている。皆びつくりしながらもやっていたが、最後によかったと手紙をくれた。これからはあらゆる機会を通じて、厳しい会社の現実を学んでほしい」と、前空手部OB会長らしい言葉が添えられた。

OB REPORT

「鬼筆仏心」をモットーに
事件を追って30年

元読売新聞大阪本社記事審査委員会委員

山本 長彦氏
(32回卒)

昭和18年高知県生まれ、高知県立戸高から大阪経済大学に進み、昭和41年4月同経済学部を卒業後、読売新聞大阪本社編集局に入社、社会部記者としてスタート。岸和田通信部、泉佐野通信部、大阪府警捜査1課、同4課、阪神支局、東大阪支局長、堺支局長、社会部筆頭次長、社長直属記事審査委員会委員を経て、現在同社社友。趣味は磯釣り、渓流釣りほか。

卒業生で事件記者30年のベテランがいると聞いて読売新聞大阪本社を訪ねた。「いや、どうも」と玄関ホールに迎えてくれた山本長彦氏（32回卒）。穏やかな表情の中にも骨太の敏腕記者らしい雰囲気を感じさせる。まずは「山本さん、新聞記者になろうとした動機は？」と尋ねてみた。

「実は親父が高知県室戸で漁師をしておりまして、私に家業を継がせようと思っていたんです。7人きょうだいの下から2番目ですが、長男は漁師に見切りをつけて大阪に出てしまい、結果的には1番下の四男が家業を継ぐことになったんです。私も親の思いを蹴飛ばして、高校を出るなり、夜逃げ同然の格好で大阪に来てしまいました。食べていくためには仕事を探さなくてはいいけません。幸い読売新聞で放送部

のアルバイトを見つけ、日夜輪転機から吐き出される新聞の束を発送場まで運ぶ仕事にあり付きました。そんなある日、社旗をなびかせ本社を飛び出す自動車に乗っている新聞記者とカメラマンの姿に目を奪われ、いつか自分もあのようになりたい仕事をしてみたいと思ったのがきっかけです」と。

しかし、記者になるには大学を出ていないとダメだと知らされる。親に学費をねだるわけにいかず、当時、住まいから自転車通学できる本学に入学。編集局などでアルバイトをしながら、生活費や学費を稼いだ。

本学では新聞部に属し、「経大新聞」の編集長を務める。「4年生の時、大阪から福井まで歩け歩け運動みたいなイベントがありまして、これを私がキャッチ、読売新聞夕刊社会面のトップ記事になったんです」と。もちろんアルバイトの彼が書いた記事がそのまま掲載されるわけがない。当時の社会部長が「山本君の原稿を見てやれ」と、ベテラン記者に声をかけ、手直しをしてもらってトップを飾ったというわけだ。

こんなこともあつて昭和42年、読売新聞大阪本社に入社、ここから事件記者の生活が始まる。岸和田通信部からスタート、大阪府警本部、阪神支局、そして東大阪支局長、堺支局長、社会部筆頭デスク、社長直属の記事審査委員会委員などを歴任してきた。この間

最後に母校に対する思いを「本学生が大阪府庁のトイレに放火する」という悲しい出来事を記憶している人も多いと思います。この時、渡邊泉前学長が直々に府庁を訪れ、謝罪したニュースが報道されましたが、これを見て私は本学も超一流になったなあ、と、逆にある種の感動を覚えました。学長の姿に経大の建学の理念である人間的実学をみる思いがしたのです。私たちは学長をはじめ本学関係者のこのような志を継承していかなければならないと痛感しました」という言葉で結ばれた。

「南海電鉄樽井事故（昭和42年）」「三菱銀行強盗事件（同54年）」「暴力団山口組の田岡組長狙撃事件」「大阪府寝屋川市における5児の母親餓死事件」「芦屋市における社長玲嬢誘拐事件」など、数々の事件やスクープを書き、特ダネ表彰も数知れない。「いつも、先輩から教わった鬼筆仏心という言葉が忘れず、時には涙しながらペンを走らせたこともありました」と。また、読売新聞がカラー写真をつけて連載した「たべもの紀行」のうち、山本氏が取材した郷土土佐（高知県）の「皿鉢」料理が、その後NHK・FM放送でドラマ仕立てにして放送されたこともあった。「今となつてはそれぞれが良き思い出となりました」と、当時を懐かしそうに語っておられた。

OB REPORT

夢はインターネットTVで
世界制覇を!

ネット・チャンネルKYO副社長

一村 かおり氏
(60回卒)

徳島県出身、徳島県立脇町高校を経て大阪経済大学に入学、平成6年3月卒業後、労務管理事務所でコンサルティング業務に携わり、現在のインターネット放送に転身して6年。ネット・チャンネルKYO副社長として活躍中。「http://www.nc-kyo.com」で「私のインターネット放送をぜひ見てください」と。

「気がついたらコンピュータ4台を操り、24時間無料放送のインターネットTV局の副社長兼プロデューサー兼マネージャー兼お手伝いさんの仕事に携わっていました」と、屈託のない笑顔で語る一村かおりさん。(60回卒)

徳島県阿波の出身で、平成6年3月本学を卒業と同時に、郷里の近くに新しく誕生した四国電力と住友・大阪セメントの合併会社で、カーテンウォールなどを生産する会社で就職。

わずか2年半ほどでこの新工場の人事管理システムを作り上げ、これを置き土産に、どうしてもやりたくなつた社会保険労務士の資格を取るため大阪へ逆戻りする。

大阪では北浜にあった某労務管理事務所でお世話になりながら専門学校に通う。その傍らで中小企業経営

者の労務相談に応じるというスーパーウーマンぶりをこでも発揮。

「先生は午後からしか出勤されないし、どうしても私がやらざるを得ないことが多くなり、12月に入所して翌年の3月には私の下に3、4人の部下がいました」というから凄い。

ここで1年3ヶ月ほど勤めたある日、別の社労士・行政書士の先生から「コンサルティングをするには資格なんかいらないよ」と、声を掛けられ、それならばと27歳の春、独立。各種助成金を得る仕事などを手掛けるようになる。

「この間いろいろな人との出会いがありました。27歳の冬、今の会社社長、許平和がFMラジオ局で2時間番組のキャスターをしており、その2時間番組の後半にゲスト出演してみないかと誘われ、それに応じた時が、私の人生の岐路だったんですね」と、当時を振り返る。

以来、コンサルティングの仕事からこの仕事に転進して6年、学生時代には思いも寄らなかつたインターネット放送の経営者の1人として、またプロデューサーとして活躍しているわけだが、「学生時代は山田前学長のゼミで農業経済論を学び、せいぜい郷里の徳島に帰って平凡な会社員に思っていたのですが…」と、その変貌ぶりには自分自身も驚いているといった感じ。

現在では数多くの番組を放送しており、その中で毎週月曜日の深夜11時から「KAO RI: 学」という自分の番組を持ち、政治、経済問題から日常の出来事まで、あらゆるジャンルを一村かおり流に切り込んで解説し、持ち前の美貌と甘い語りかけるような口調で、深夜族を中心に根強いファンを集めている。

「ぜひhttp://www.nc-kyo.comからインターネット放送を見てやってください」と。

最後に「後輩へのメッセージは…」と話題を変えた。「アメリカの諺に、天使の前髪をつかめというのがあります」と。どうせやるなら人生を掛けて手に入れるという、一村さんらしい前向きな人生訓だ。

そこで「将来の夢は…」と話を向けると「インターネットTVの世界展開と、そこを中心に活躍する国際的なタレントの養成です。許社長が中国、香港を中心に幅広い人脈を持つているので、それに現在のインターネット局をからませ、まずは日本、中国、韓国に拠点を置くタレント養成所を実現させ、最終的には世界を征服したいですね」と、身を乗り出す。可能性を秘めた彼女の今後の変身振りが楽しみだ。



黒正巖博士異聞

日本経済史研究所 所長 徳永 光俊 教授

黒正巖博士はいかなる人であったか。学者、文人、教育者……。今までたくさんの方が語られてきたが、今回は少々変わった視点からの黒正像を紹介しよう。

最初は、昭和6年の『学界新風景』と題する三面記事の学界裏事情である。「百姓二揆か黒正博士か 学的生活の全貌」によれば、京大で5番目に経済学博士を取得した黒正巖氏は、37歳の若さであるが、百姓二揆の研究により全京大から将来を嘱目されていると褒め称えている。その生活ぶりについて、「博士は今までこそ、その百姓二揆の二党を引きつれ、時には四条のバー白鳥あたりに陣取り痛飲ぶりを見せているものの、その昔六高から大正9年京大を出たころの博士は、紅顔の美青年でかなりのハニカミであったが、海外留学を命ぜられて船に乗るやその日から猛烈なホーム・シックにかかった。このホーム・シック退治の一助にもとウイスキーをなめておつたのが、向うにつくころにはすっかりウイスキー党になり終った」と、さる消息通の話を紹介している。

次は、2004年7月に亡くなった著名な理論経済学者である森嶋通夫氏の回想談である。森嶋氏は昭和18年、京大経済学部1年生の時に黒正博士の「経済地理学」を習った。レポートは自分では相当の出来だと自負していたのに、採点が平均点に過ぎなかつたので、次のように述べている。「『キリンも老いば駄馬となる』と自らを慰めるより他ない。……彼は確かに元キリンに値した俊秀青年教授であつた人だ」(『智にはたらけば角が立つ』28頁 朝日新聞社 1999)。なかなか辛辣な評である

が、駄馬であるかどうかは別として、百姓二揆の研究により当時麒麟として極めて高く評価されていたことがわかる。

最後に、昭和24年9月に急逝した博士への追悼文を紹介しよう。これらは、同窓生の藤原大八氏が蒐集したものである。『月刊山陽』の昭和24年12月号は、「清濁の傑物、故黒正巖氏を偲ぶ」と題して、「冬ともなれば黒正巖氏のあの特異な風貌がとにかく眼先にちらつく。ボサボサの髪赤ら顔、ひょうきんな顔だち、荒い白黒ダンガラ縞のオーバー、ステッキ、非常にダンディであるが、深い豊かな精神をのぞかせている身のこなし。それでいて接する人誰にでも親しい思いをわかせていた」と述べている。同窓生の中でも、その姿を思い出される方がいらつしやるのではなからうか。

六高教授大山茂昭は、「黒正先生は経済学者であり、行政家であり、文人であり、美術愛好家でありながら、実は学者でもなく、政治家でもなく、文人でもなく美術愛好家でもない。先生の本質はやはり、前述の意味での生きた現実の歴史家であり、批評家であつたのではない。この優れた現実の理解者は、自然や社会のあらゆる現象の各々に、一々感応する頭脳と学識をもった。そこに氏一流の柔らかな人間味が豊富に溢れて来た」(『山陽新聞』昭和24年9月12日付)と、思い出を語っている。

以上のやや変わった視点からの紹介を読めば、柔らかな人間味あふれる黒正博士の実像が浮かび上がってくる。本学の「自由と融和」の建学の精神は、黒正巖博士の生き方そのものであつたのではなからうか。



新鮮野菜にオープン前から人垣ができ、餅つきや焼き鳥の人気コーナーは長蛇の列となった

大盛況のオータム・コレクション

秋晴れの晴天に恵まれた11月3日、大学、同窓会主催の「オータム・コレクション」(フリーマーケット)が、本学西キャンパスで開かれた。会場には北海道支部のジャガイモをはじめ全国12支部から送られてきた地方の特産品や、岩谷産業(株)などOB企業9社が自慢の自社商品を出品、盛りだくさんの出品物に早朝から子供さんづれの来場者で大にぎわい。とりわけ災害続きで野菜の高騰が話題になっていることから、川上村木工センターのブースには開店前から大根やキャベツを求めて行列ができる始末。

丹有支部出店の焼き鳥コーナーも大好評で「2000本の焼き鳥を用意してきましたが、完売です。昨年の3倍の売れ行きでした」と、担当者もホクホク顔。人気の餅つきコーナーでも「もち米40kg、つぶあん5kg、きな粉500gを用意したのですが、あつという間に終わってしまいました」と、ここでもうれしい悲鳴。

なお、今回の催しは学生に起業のバリエーション体験をしておくと、徳永先生のゼミ生が中心となって各支部から送られてきた特産品に値段をつけ、各店ごとの責任者(社長)が収支状況を取りまとめるという取り組みが行われ「私の方は利益を確保できた」とか「安売りしすぎてちよびり赤字が出たかも...」といった調子で、学生達も真剣に、かつ楽しげに商売の難しさを体験していた。



家族揃ってパソコン教室

大学、同窓会、後援会主催の2004年度パソコン教室が、さる9月18、19、20日の3日間、本学50周年記念館で開かれ、延べ483名の受講生がパソコンのキーボードをたたいた。このパソコン教室は、学習プログラムからテキスト制作、当日のレッスン、アドバイスなど、すべて学生によって企画、運営されているもので、今年で4年目(5回目)を迎えた。「今回は受講生の皆様に、よりキメの細かい指導をさせていただくため、柔軟な講座体系に一新し、「入門コース」に「インターネットコース」、「タイピングコース」を加え、「基礎コース」に「ワープロソフト中級コース」、「表計算初級コース」を加えた、「はがきコース」と「デジタルカメラコース」を加えた、8コースを選択していただけるようにしました。一般学生から参加してくれた2名を加えた26名の学生が、誠意を持って指導させていただきました」と、2004年度パソコン教室実行委員会の委員長を務める中野曉仁君もやや緊張気味。

教室では終始なごやかな雰囲気です。レッスンが進められ、ご夫婦で参加の中年女性も「立派な設備の中で、手取り、足取りの指導をして頂いて大変満足しております」と。また中学生のお嬢さんと席を並べてパソコンの画面を覗き込むお母さんも「家庭では子供に教えることができない状態ですが、2人で勉強しているので心丈夫でした」と満足そう。「我々の時代には考えられない立派な教室で勉強させてもらって...今年こそパソコンで年賀状を作りますよ」と、初老のOBもにこやかにパソコンに取り組んでおられた。

学 歌

作詞 秋本吉郎
(元本学教授)
作曲 柴田南雄
(元東京芸術大学教授)

1.
大波の 水は春ゆく
ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が沁みる
この若さ
希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

2.
大樟の 蔭は裕々
夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に
確かに植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学園歌

作詞 黒正巖
(昭和高商初代校長)
作曲 水野康孝
(元本学教授)

1.
商都の東北^{でんこう}澱江に
臨みて高く聳り立つ
我等が昭和学園は
産業日本を双肩に
担うて進む若人の
力の糧の広野原

2.
一千余年の其の昔
大隅の宮の在りませし
聖き跡の学園は
忠孝日本を心肝に
銘して学ぶ若人の
教えの道の元標

3.
黒煙天をひた蔽い
船車どよもす八衝を
静かに臨む学園は
科学日本の究明に
生命を注ぐ若人の
心の花の咲く園生

逍遙歌

作詞 中村行男
(16回卒)
作曲 松川圭一
(15回卒)

1.
此処 城北に迎えたる
紺碧^{こんぺき}淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝^ゆきし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2.
水や濁れる人の世に
真理^{まこと}求めて遊ぶ子の
友愛^{くおん}久遠に変わるまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜しみて励め我が青春を

3.
踏めば^{おぐさ}小草も柔き
弥生の庭に集い来し
我が学舎の乙女子は
生命^{まなびや}新たな此の曲に
花咲く^{いのち}野山花の下
声美しく歌うかな



でんこう
澱江
2004

■発行日 2004年12月20日
■編集 同窓会広報部
〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 電話 (06) 6328-2431
■印刷 凸版印刷株式会社
〒553-8580 大阪市福島区海老江3-22-61 電話 (06) 6454-3256